

高槻市文化財年報

平成15・16年度

高槻市教育委員会

高槻市文化財年報

平成15・16年度



史跡今城塚古墳 史跡公園完成イメージ



史跡今城塚古墳 平成16年度整備地



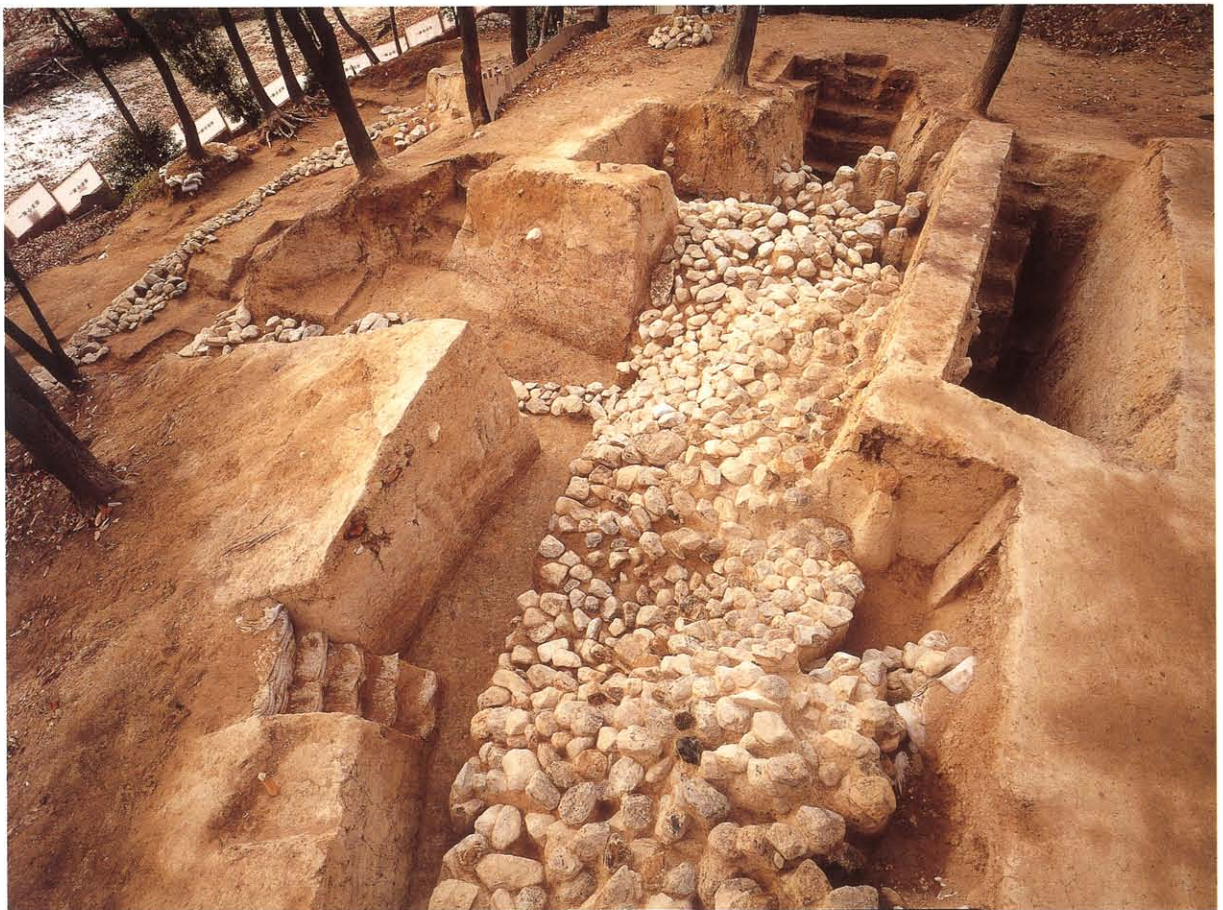
上土室遺跡 B区 (東側から)



上土室遺跡 B区火葬墓群



史跡今城塚古墳 後円部護岸列石・南造出（東側から）



史跡今城塚古墳 後円部墳丘内石積（北側から）



史跡關鷄山古墳 東側くびれ部（南東側から）



史跡關鷄山古墳 西側くびれ部（南側から）

目 次

1	平成15年度	
	Ⅰ 文化財の調査及び研究	1
	Ⅱ 文化財の保護及び保存	7
	Ⅲ 文化財の普及啓発及び活用	9
2	平成16年度	
	Ⅰ 文化財の調査及び研究	15
	Ⅱ 文化財の保護及び保存	20
	Ⅲ 文化財の普及啓発及び活用	23
3	概要報告	
	Ⅰ 上土室遺跡(2002-A)の調査	29
	Ⅱ 史跡今城塚古墳第7・8次規模確認調査	36
	Ⅲ 史跡鬮鶏山古墳第2・3次確認調査	38

1 平成15年度

I 文化財の調査及び研究

1.文化財の調査

文化財保護の基礎資料とするため、文化財審議会委員の協力のもと、以下の調査を実施した。

□建造物の調査

・永井神社社殿、唐門（図版第1）

指 導：川上 貢氏（文化財保護審議会委員）

所在地：野見町1146番地

実施日：12月2日

概 要：永井神社は高槻城三の丸の一角に所在する野見神社の摂社で、江戸時代中期寛政5年（1793）8月高槻藩主永井直進が、永井家初代藩主永井直清の霊神を祭神として勧請し、創建した。その後、嘉永元年（1848）藩主永井直輝が藩祖直清の高槻城入城二百年を記念して社殿を修復、新たに唐門と拝所を造立したことが棟札四枚に記されている。

社殿は野見神社の本社本殿の東、野見神社参道に面して北から本殿（覆屋付き）、合の間、拝殿を配し、拝所は拝殿正面中央に突き出す形で配置している。この社殿前方に、左右に透塀をつけた唐門が神社を画す。

本殿は一間社流造、檜皮葺で、正面に両開き菱格子戸、側面は片開き菱格子戸に板壁、背面は両開き唐戸を装置し、本殿と背面を除く三方に縁を回している。軒唐破風内の壁や縁端にある脇障子の板壁を薄肉彫りで飾る牡丹、蓮花、唐獅子など彫刻装飾の発達した手法に特徴が見出せる。

唐門は向唐破風造、本瓦葺で、兎毛通しや蓑股の透かし彫りなどは、拝殿の拝所の彫刻とあわせて建築における彫刻装飾の優品といえる。

また、社殿内には旧藩士中井元次郎によって、江戸時代の高槻城の様子が描かれた絵馬が奉納

されており、往時の高槻城の概況を知り得ない今日では貴重な史料といえる。

・本照寺山門、東門、鐘楼（図版第2a）

指 導：川上 貢氏（文化財保護審議会委員）

所在地：富田町4丁目3072番地他

実施日：12月2日

概 要：本照寺は中世の応永34年（1427）に浄土真宗本願寺第七世存如が創建したと伝える富田光照寺を前身とし、江戸時代初期の正保3年（1646）に本願寺第十二世准如の第三子良教が光照寺へ入り、第九世住持に就任、寺名を本照寺に改めている。

寛政元年（1789）に本堂他を焼失していて、同10年（1798）に現在の本堂が再建された。

寛政8年（1796）刊行の「摂津名所図会」に収録されている本照寺境内の図には、本堂は焼けて未だ再建されていない現状を記すも、山門、東門、鐘楼を現在地にみるができるから、被災を免れたことが知られる。図にみる山門は軒唐破風のない門に描き、現在の門とは形式が違っており、その後改築されて現在の門が成立したことが推測できる。

山門は、本堂の前面に所在する四脚門形式の表門で、左右に築地塀、前面の堀に石橋が架かる。屋根は切妻造、本瓦葺、前後に軒唐破風をもつ。頭貫の木鼻は唐獅子につくるほか欄間、扉、窓を華やかに装飾している。

東門は、一間一戸の葉医門で、左右に築地袖塀を付属する。屋根妻は破風の拌みに三花懸魚、軒桁は梅鉢懸魚で飾り、木鼻の絵様や蓑股を彫刻で飾るも、唐門に比して装飾は強くない。鐘楼は、一間四方の四隅にたつ円柱を腰貫、頭貫、台輪でつないだ構造である。

□祭礼の調査

・磐手杜神社 馬祭

指 導：原 泰根氏（文化財保護審議会委員）

実施日：5月3・5日、9月13・14日

概 要：磐手杜神社は高槻市安満地区に所在する。もとは安満神社と呼ばれ、のちに春日神社と称したが、明治44年(1911)に、前年の別所雲峯神社との合祀に伴って現在の呼称に改めた。

「磐手杜神社の神輿渡御神事」は、安満地区の磐手杜神社で毎年5月5日に執り行われ、通称「馬祭」と呼ばれる。その記録は貞享2年(1685)の「村馬番覚書」まで遡ることができ、当初の形式をよく残している祭礼である。

祭礼は、古くから耕作を生業とする安満の地において、一ノ馬座と女郎座(二ノ馬座、三ノ馬座)の二つの座からなる宮座によって執り行われる祭事で、五穀豊穡を願う農耕儀礼として現在まで継承されている。「馬祭」という通称は祭礼の中で「ノリコ」と呼ばれる稚児(男児)がそれぞれ一ノ馬、二ノ馬、三ノ馬に乗り、神輿の渡御とともに御幸する姿から付けられた名称である。

神輿渡御神事は、宮座の当屋の家で「オダン」と呼ばれる神をお迎えするための仮屋と祭壇を設ける「オダンツキ」の儀式で始まる。本宮は、5月5日の早朝、一ノ馬に神馬の位を授ける「アシアゲの儀」に始まり、行列を指揮する8人の視配に扇を渡す「扇渡しの儀」が続き、一同が神社へ参集する。渡御行列は、ツユハライ・高幣・二本の日の出鋒・サキバシリ・花神輿・一ノ馬・神輿・二ノ馬・三ノ馬の順番で村を練り歩く。行列は「市場の辻」、「北の辻」、「新町」の各御旅所を巡りながら神社に還り、一ノ馬の「ノリコ」が神輿から御神体を神社へ納めた後、「オダン」を撤去、祀っていた御幣を屋根へ投げ投げ神事はお開きとなる。

祭礼神事の中で特徴ある儀式として「オダン

ツキ」並びに「シバオリの儀」があげられる。「オダンツキ」は、当屋の軒先に黒松の葉で囲んだ仮屋を設け、その中央に芝台をつくり御幣、お供えなどで祭壇をつくり、そこに神霊を迎えるという仕草にある。「シバオリの儀」は、各御旅所で行われる儀式で、その様子は、檜の葉、チマキ、落を神職、「ノリコ」、村役、宮座の各々に配り、土器にて酒を振舞い、田畑の豊穡と村人の安寧を祈願するというもので、渡御行列巡行中で最も重要な儀式として今日まで受け継がれている。

□掘り起こし調査

しろあと歴史館の展示資料の充実及び本市の歴史・文化の発掘のため、文化財の掘り起こし調査を23件実施した。また、広報たかつき10月10日号で「市内に眠る文化財の調査にご協力を」の記事を掲載して、市民に呼びかけ、資料の収蔵・資料化を図った。(1-Ⅱ-7.文化財の寄贈・寄託 参照)

・特別展開催に伴う掘り起こし調査

秋季特別展「高槻の古窯 古曾部焼の世界」の開催にあたり、古曾部焼関連資料の所蔵機関・個人に対して新たな資料の発掘と調査を行い、展示の充実と研究の進展に努めた。

調査日：6月18日～7月30日

調査先：大阪歴史博物館・枚方市教育委員会・
本山寺・個人3件

概 要：大阪歴史博物館では、古曾部焼のまとまったコレクションを所蔵しており、「高槻城主鉄線花定文入菓子器」「三島写茶碗」「辰砂釉青磁陶窯」など約20点の調査を行った。また、本山寺には、高さ1mほどの「伝古曾部焼唐草文灯籠」が所蔵されており、今回初めて展示公開することができた。市内の個人からも、古曾部焼の弁当・大壺・敷瓦などの多彩な用途のものを新たに掘り起こすことができた。さらに、枚

方市教育委員会において「古曽部窯に関する発掘調査」資料の調査を行った。

・磐手杜神社拝殿改築に伴う鬼瓦銘文調査

実施日：7月8日

概要：拝殿改築に伴い、拝殿北・南側の鬼瓦に、延享3年（1746）の銘文を確認した。

また、同時に寛保2年（1742）【裏には昭和2年（1927）】の棟札も調査し、資料化を行った。

・玉村コレクションの整理

昭和40年代から収集された郷土玩具約3,800点が、玉村時男氏から平成15年1月に寄贈された。これらの製作地を都道府県別に分類し、名称・種類・製作地等データ化に努めた。

整理データ数 2,623点

整理ケース数 約150箱

2. 埋蔵文化財の調査

□平成15年度の調査（表1～3）

平成15年度の土木工事等に伴う埋蔵文化財調査の届出件数は繰越分を含めて80件で、このうち20遺跡について、発掘調査20件、工事立会45件をそれぞれ実施した（表1参照 大阪府が実施した2件を含む）。

なお上土室遺跡では後述のように、前年度に実施した調査（2002-A）が今年度に終了し

たので、一覧表に記載した。

最も件数が多かったのは、高槻城跡（発掘調査2件、立会19件）である。大半が個人住宅あるいは分譲住宅に伴う立会であるが、外堀の深さや堆積状況などの資料が着実に蓄積されている。なお、大阪府が調査を実施した府立高校校舎増築工事に伴う調査（2003-C）において、本丸北東側の内堀が想定位置よりも西寄りで見出された。また、遺物としては金箔押軒平瓦や窯道具が出土している（『大阪府埋蔵文化財調査報告2003-4 高槻城跡』大阪府教育委員会 2004年3月31日）。

次いで、郡家今城遺跡及び鴨神社跡において、個人住宅建設に伴う立会を7件実施している。また、嶋上郡衙跡では立会1件と史跡現状変更に伴う調査を5件実施したが、特筆すべき遺構の検出はみられなかった。

郡家車塚古墳の調査（2003-A）では、後円部東側で溝状遺構を検出した。後円部東側裾部が明らかでないことから確定はできないものの、東方向に下降した地形であることを考慮すれば、周濠の一部である可能性が指摘できる。

中畑遺跡は田能北遺跡の東方約1.5kmに位置し、平成14年度に発見されており、今回大阪府によって発掘調査が実施された。後期旧石器時代および縄文時代の石器をはじめ、鎌倉時代の

個人住宅	造成・擁壁・分譲住宅	共同住宅等建物	上・下水道水路	電気・ガス等工事	駐車場・倉庫等	史跡管理	試掘・確認調査	その他	合計
33	11	4	4	2 (1)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	6 (3)	65 (9)

表1 届出地別調査及び立会件数

下段（）内は史跡現状変更許可申請に伴うもの

遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計
嶋上郡衙跡	5	1	6	前塚古墳		1	1	中畑遺跡	1		1
塚原古墳群	1		1	郡家今城遺跡		7	7	慈願寺山遺跡		1	1
史跡鬮鷄山古墳	1		1	水室遺跡	1		1	天神山遺跡		1	1
鴨神社跡		7	7	宮田遺跡		1	1	高槻城跡	2	19	21
中城遺跡		2	2	宮之川原遺跡	1	1	2	安満遺跡	1	2	3
郡家車塚古墳	1		1	大蔵司遺跡	2		2	神内遺跡	2	1	3
史跡今城塚古墳	2		2	田能北遺跡		1	1	合計	20	45	65

表2 遺跡別調査及び立会件数

No	遺跡名(地区)	所在地	届出者	用途	面積(m ²)	種別
1	嶋上郡衙跡(2003-A)	川西町一丁目995-1	サンスター技研	店舗建設	7,392.39	立会
2	史跡嶋上郡衙跡(2003-B)	清福寺町982-3	高槻市長川西コミセン	門扉改修等	331.00	調査
3	史跡嶋上郡衙跡(2003-C)	清福寺町982-3	高槻市	防災用備蓄倉庫	6.75	調査
4	史跡嶋上郡衙跡(2003-D)	川西町一丁目1001	高槻市教育委員会	受電設備改修等	2.10	調査
5	史跡嶋上郡衙跡(2003-E)	清福寺町982-3	高槻市	スロープ設置	5.80	調査
6	史跡嶋上郡衙跡(2003-F)	清福寺町989-1	高槻市教育委員会	フェンス設置	フェンス延長30m	調査
7	塚原古墳群(2003-A)	塚原二丁目27-1	富士住研	宅地造成	142,000.00	調査
8	史跡闘鶏山古墳(2003-1)	水室町六丁目1-3他	高槻市教育委員会	確認調査	537.00	調査
9	鴨神社跡(2003-1)	赤大路町358-2の一部	大西 宗	個人住宅建設	86.20	立会
10	鴨神社跡(2003-2)	赤大路町11-18	堂田和宏	個人住宅建設	85.00	立会
11	鴨神社跡(2003-3)	赤大路町11-14	佐藤 力	個人住宅建設	85.00	立会
12	鴨神社跡(2003-4)	赤大路町11-19	山本真司	個人住宅建設	85.00	立会
13	鴨神社跡(2003-5)	赤大路町11-23	古杉りえ	個人住宅建設	86.25	立会
14	鴨神社跡(2003-6)	赤大路町11-22,358-11	中西鉄弘	個人住宅建設	86.25	立会
15	鴨神社跡(2003-A)	赤大路町11-16	山本典宗	個人住宅建設	85.00	立会
16	中城遺跡(2003-A)	昭和台町一丁目108-2・108-3	竹本廣義	個人住宅建設	250.05	立会
17	中城遺跡(2003-1)	昭和台町二丁目131番2	山口陽一	個人住宅建設	137.65	立会
18	郡家車塚古墳(2003-A)	岡本町791	山田泰子	個人住宅建設	2,349.66	調査
19	史跡今城塚古墳(2003-1)	郡家新町686-1他	高槻市教育委員会	規模確認調査	1,000.00	調査
20	史跡今城塚古墳(2003-A)	郡家新町671	高槻市	道路反射鏡	0.20	調査
21	前塚古墳(2003-A)	岡本町地内	高槻市	下水道建設	274.00	立会
22	郡家今城遺跡(2003-1)	郡家新町169-4	梶村一太	個人住宅建設	74.65	立会
23	郡家今城遺跡(2003-2)	水室町一丁目781-15	山下幸雄	個人住宅建設	111.13	立会
24	郡家今城遺跡(2003-3)	水室町一丁目781-9	加藤重四郎	個人住宅建設	89.37	立会
25	郡家今城遺跡(2003-4)	水室町一丁目779-3	鈴木隆司	個人住宅建設	130.28	立会
26	郡家今城遺跡(2003-5)	水室町一丁目781-14	久世房夫	個人住宅建設	104.02	立会
27	郡家今城遺跡(2003-6)	郡家新町169-1	梶村一太	個人住宅建設	75.74	立会
28	郡家今城遺跡(2003-7)	水室町一丁目779-6	中地義一	個人住宅建設	111.28	立会
29	氷室遺跡(2003-A)	氷室町二丁目666	大阪巴コーポレーション	宅地造成	16,784.69	調査
30	宮田遺跡(2003-A)	宮田町三丁目地内	高槻市	下水道建設	118.00	立会
31	宮之川原遺跡(2003-1)	宮之川原元町886-4	増原永・なおみ	個人住宅建設	45.10	立会
32	宮之川原遺跡(2003-A)	宮之川原五丁目	高槻市	下水道建設	205.20	調査
33	大蔵司遺跡(2003-A)	大蔵司三丁目297-2他	成喜建設	宅地造成	450.88	調査
34	大蔵司遺跡(2003-B)	大蔵司三丁目298-3	前田隆夫	店舗建設	142.06	調査
35	田能北遺跡(2003-A)	大字田能小字スハノ下31-2	KDDI(株)	携帯電話無線局	17.70	立会
36	中畑遺跡(2003-A)	大字中畑地内	大阪府北部農と緑の総合事務所	圃場整備	7,000.00	調査
37	慈願寺山遺跡(2003-1)	月見町28-90	奥田孝史	個人住宅建設	292.66	立会
38	天神山遺跡(2003-1)	天神町2-931-17	細越隆幸	個人住宅建設	149.90	立会
39	高槻城跡(2003-A)	出丸町968-6	中井喜久子	個人住宅建設	133.85	立会
40	高槻城跡(2003-1)	城内町1015-27・35・41・45	小藪浩士	個人住宅建設	103.70	立会
41	高槻城跡(2003-2)	城内町1015-43	三上輝広	個人住宅建設	95.92	立会
42	高槻城跡(2003-3)	城内町1015-28・1015-36	芳山雄一	個人住宅建設	84.66	立会
43	高槻城跡(2003-B)	出丸町982-1	(株)住まいのタナカ	分譲住宅	100.00	立会
44	高槻城跡(2003-C)	城内町2-13	大阪府教育委員会	府立高校校舎増築	32,174.80	調査
45	高槻城跡(2003-D)	城内町1015-29・1015-37	中川修一	個人住宅建設	84.67	立会
46	高槻城跡(2003-E)	出丸町983-3	(株)住まいのタナカ	分譲住宅	100.50	立会
47	高槻城跡(2003-F)	出丸町983-4	(株)住まいのタナカ	分譲住宅	79.07	立会
48	高槻城跡(2003-G)	出丸町983-5	(株)住まいのタナカ	分譲住宅	79.02	立会
49	高槻城跡(2003-H)	出丸町983-6	(株)住まいのタナカ	分譲住宅	80.23	立会
50	高槻城跡(2003-4)	野見町1225-17	森廣智仁	個人住宅建設	72.34	立会
51	高槻城跡(2003-5)	出丸町994-10他	木村暎子	個人住宅建設	88.08	立会
52	高槻城跡(2003-6)	城内町1015-40,1015-44	千布和也	個人住宅建設	66.85	立会
53	高槻城跡(2003-7)	八幡町1048-1	織谷茂雄	個人住宅建設	83.74	立会
54	高槻城跡(2003-J)	出丸町990-9他	(株)住まいのタナカ	分譲住宅	2,844.75	調査
55	高槻城跡(2003-8)	城内町1015-31,39,46,48	荒木康彰	個人住宅建設	67.96	立会
56	高槻城跡(2003-9)	八幡町1048-21,22,23	河内裕司	個人住宅建設	84.71	立会
57	高槻城跡(2003-10)	城内町1015-47,49	井上暢明・千明	個人住宅建設	69.77	立会
58	高槻城跡(2003-11)	城内町1015-42	辻康成	個人住宅建設	100.00	立会
59	高槻城跡(2003-A)	城内町1492-4	大阪府	下足室増設	38.29	立会
60	安満遺跡(2003-A)	八丁畷町21-3	京都大学	水槽撤去	231.00	立会
61	安満遺跡(2003-B)	八丁畷町289-1他	関西電力	監視カメラ設置	18.72	立会
62	史跡安満遺跡(2003-C)	八丁畷町230-1他	高槻市教育委員会	フェンス設置	フェンス延長46.2m	調査
63	神内遺跡(2003-A)	神内二丁目他	高槻市長	下水道建設	500.00	調査
64	神内遺跡(2003-B)	神内二丁目101-1	(株)大阪住宅	分譲住宅	77.07	立会
65	神内遺跡(2003-C)	神内二丁目101-1	(株)大阪住宅	分譲住宅	1,671.00	調査
66	上土室遺跡(2002-A)	上土室6丁目2番地他	高橋開発株式会社	宅地造成	36,201.69	調査

表3 平成15年度調査地一覧

担当者	期 間	調 査 内 容
西村	15.9.9~10 11.6 11.28	地皮下1.0~1.4mで暗灰褐色砂質シルトの地山を確認 上層の耕作土から須恵器・土師器出土。
橋本	15.8.6	史跡現状変更 遺構面に達せず
橋本	16.1.15	史跡現状変更 遺構面に達せず
橋本	16.2.12	史跡現状変更 遺構面に達せず
橋本	16.2.13	史跡現状変更 遺構面に達せず
橋本	16.2.18	史跡現状変更 遺構面に達せず
橋本	15.9.22~16.3.31	横穴式石室をもつ円墳3基を調査
高橋	15.9.18~16.3.9	史跡現状変更 第1主体・第2主体の墓壇掘形を確認 後円部・前方部頂部に礫敷を検出(第2次確認調査)。本書概要報告掲載
西村	15.6.9	※地皮下1.1mで明赤褐色土の地山確認 参道に関わるとみられる横木検出 遺物無し
木曾	15.8.12	※地皮下0.7mで暗黄褐色土の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.8.13	※地皮下0.65mで暗黄褐色土の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.8.22	※地皮下0.65mで暗黄褐色土の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.9.30	※地皮下0.7mで暗黄褐色土の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.10.1	※地皮下0.75mで暗黄褐色土の地山確認 遺構・遺物無し
橋本	16.3.1	地皮下0.7mで暗黄褐色土の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.5.2 5.7~14	地皮下0.5mで暗黄褐色礫土の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.8.20	※地皮下0.2mで黄灰色礫土の地山確認 遺構・遺物無し
高橋	15.4.22~4.30	後円部東側周溝底部と外方への立ち上がり斜面を確認
宮崎	15.8.11~16.3.3	史跡現状変更 後円部でテラス・葺石・円筒埴輪・排水溝を検出 南北の両造出を確認(第7次規模確認調査)。本書概要報告掲載
橋本	15.12.9	史跡現状変更
鐘ヶ江	15.10.30~16.3.31	盛土・整地土内の掘削
西村	15.5.20~23	※地皮下0.64mで灰褐色砂質シルトの地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.6.11~12	※地皮下1.1mで黄灰褐色粘土の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.6.19~23	※地皮下1.1mで黄灰褐色粘土の地山確認 遺構・遺物無し
宮崎	15.6.26~30	※地皮下1.3mで黄灰色砂質土の地山確認 遺構・遺物無し
高橋	15.7.14	※地皮下1.25mで淡青灰色砂質土の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.8.28	※地皮下0.75mで黄灰褐色土の地山確認 遺構・遺物無し
西村	15.10.20	※地皮下1.22mで淡灰褐色砂層の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.11.4	地皮下0.3mで黄褐色礫土の地山確認 遺構・遺物無し
橋本	15.10.30~16.3.31	地皮下1.2mで黄灰色土の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.9.12	※地皮下0.7mで黄褐色粘土の地山確認 遺構・遺物無し
木曾	15.10.24~16.3.31	地皮下1.7mで灰褐色砂礫土の河床堆積確認 遺構・遺物無し
木曾	15.7.17	地皮下1.2mで黄灰色砂質土の地山確認 遺構・遺物無し
西村	15.7.17	地皮下0.75mで灰黄褐色粘土の地山確認 上層の芥川堆積層から須恵器・土師器出土
木曾	16.1.8	地皮下0.3mで暗黄灰色砂質土の地山確認 遺構・遺物無し
大阪府	15.6.30~16.2.26	大阪府調査 中世の建物・柵・溝等検出 旧石器・縄文時代の石器・土師器・須恵器・瓦器等出土*1
西村	15.8.19	※盛土が厚く地皮下約1mでも遺構面に達せず
木曾	15.5.16~19	※地皮下0.2mで黄灰色粘土の地山確認 遺構・遺物無し
西村	15.5.1~6	地皮下1.15mで淡灰褐色粘土の地山確認 遺構・遺物無し
宮崎	15.5.27~30	※地皮下1.9mで暗灰色粘土の外堀整地層を確認 遺構・遺物無し
木曾	15.6.2~3	※地皮下1.2mで黒灰色粘土の外堀堆積土を確認 遺構・遺物無し
木曾	15.6.4~6	※地皮下1.15mで黒灰色粘土の外堀堆積土を確認 遺構・遺物無し
高橋	15.6.17	地皮下1.25mで淡灰褐色粘土検出 整地土か
大阪府	15.6.26~10.14	大阪府調査 本丸北東側の内堀確認 金箔押軒丸瓦・窯道具等出土*2
西村	15.7.14	地皮下1.15mで暗青灰色粘土の外堀堆積土確認 遺構・遺物無し
木曾	15.8.29	地皮下約1mで遺構面に達せず
木曾	15.9.1	地皮下約1mで遺構面に達せず
木曾	15.9.2	地皮下約1mで遺構面に達せず
木曾	15.9.3	地皮下約1mで遺構面に達せず
西村	15.9.8	※盛土が厚く地皮下1.0mでも遺構面に達せず
西村	15.9.16	※地皮下1.5mでも遺構面に達せず
西村	15.9.22	※地皮下1.48mで緑灰色粘土の外堀堆積土を確認 遺構・遺物無し
木曾	15.10.7	※地皮下0.85mで緑灰色粘土の外堀堆積土を確認 遺構・遺物無し
西村	15.11.4~11.10	地皮下2.2mで暗灰色粘土の地山を確認 下層の堆積層から縄文土器出土 整地層から瓦出土
西村	15.12.2~5	※地皮下1.06mで明灰褐色粘質土の外堀堆積土を確認 遺構・遺物無し
西村	15.12.22~26	※地皮下1.04mで黒褐色粘土の外堀堆積土を確認 江戸時代の瓦・陶磁器出土
橋本	16.1.6~9	※地皮下0.4mで黄褐色土の地山を確認 遺構・遺物無し
橋本	16.1.13~16	※地皮下0.4mで黄褐色土の地山を確認 遺構・遺物無し
橋本	16.2.18	遺構面に達せず
橋本	16.2.17	遺構面に達せず
橋本	16.3.4~5	遺構面に達せず
橋本	15.4.25	史跡現状変更 遺構面に達せず
木曾	15.8.25~16.3.31	地皮下0.8~1.1mで灰褐色粘質土の地山を確認 遺構・遺物無し
西村	15.10.6	地皮下0.95mで明灰褐色粘質土の地山を確認 上層に0.1mの遺物包含層あり 遺構無し
木曾	15.10.17	地皮下1.1mで灰褐色土の地山を確認 遺構・遺物無し
橋本	14.7.3~15.4.30	土坑墓・集石土坑墓・茶毘墓等合計1463基を調査 本書概要報告参照

遺跡別・調査年月日順に配列 ※は高槻市文化財調査概要31「嶋上遺跡群28」に掲載

建物群などを検出しており、山間部の開発状況を知るうえで、重要な資料となった(『中畑地区発掘調査概要－府営農地還元資源利活用事業「榎田地区」の調査』大阪府教育委員会 2004年3月31日)。

上土室遺跡では、前年度から継続して調査(2002-A)を行ってきたが、今年度に調査が終了した。墓地の総数は1,463基にのぼり、主な埋葬施設には土坑墓・集石土坑墓・茶毘墓等があり、大刀等鉄製品も出土した。(3-I 概要報告参照)

3. 文化財資料等の刊行

- ・「平成15年度秋季特別展図録 高槻の古窯古曾部焼の世界」
- ・「開館1周年記念特別展図録 発掘された埴輪群と今城塚古墳」
- ・「高槻市文化財年報 平成13・14年度」
- ・「史跡 今城塚古墳－平成14年度 第6次規模確認調査－」
- ・「高槻市文化財調査概要31 嶋上遺跡群28」
- ・「史跡關鷄山古墳整備基本構想」

Ⅱ 文化財の保護及び保存

1.文化財保護審議会

・第1回：7月11日

①しろあと歴史館の開館状況・今後の特別展示等報告

②史跡今城塚古墳・鬮鷄山古墳の調査説明

③文化財基本調査の進捗

④その他

・第2回：平成16年2月25日

①平成15年度史跡今城塚古墳・鬮鷄山古墳調査報告について

②しろあと歴史館開館1周年記念特別展について

③事業報告・事業計画（案）について

④祭礼及び建造物調査について

⑤その他

文化財保護審議会委員

	氏名	専門
委員長	田中 忠彌	学識経験
副委員長	原口 正三	埋蔵文化財
委員	脇田 修	古文書
委員	川上 貢	建造物
委員	井上 正	美術工芸
委員	野田 昭三	記念物
委員	原 泰根	民俗文化財

2.史跡今城塚古墳保存整備事業

□第7次規模確認調査

史跡整備の基礎データを集積するため、第7次規模確認調査を実施した。調査の結果、後円部ではテラス・葺石・円筒埴輪列・排水溝などを検出し、このうち石組みの排水溝については主体部に関わる遺構と期待された。また、くびれ部の規模が明らかとなったほか、南側造出の存

在が確認された。（3-Ⅱ概要報告参照）

調査期間：8月11日～平成16年3月3日

3.史跡鬮鷄山古墳保存整備事業

□第2次確認調査

史跡整備の基礎データを集積するため、第2次確認調査を実施した。調査の結果、後円部墳頂と前方部平坦面を覆う礫敷を検出するとともに、前回の調査で確認した2つの竪穴式石室の墓壇掘形も確認し、古墳の外表施設及び内部主体の状況の一端が明らかとなった。また、古墳をめぐる環境を総合的に判断するため、保存環境調査を実施した。（3-Ⅲ概要報告参照）

調査期間：9月18日～平成16年3月9日

4.史跡の土地の買上げ

史跡保存のため、嶋上郡衙跡附寺跡・安満遺跡・今城塚古墳・鬮鷄山古墳の土地を買収した。

史跡名	15年度末累計面積	公有化率
嶋上郡衙跡附寺跡	13,616.38m ²	13.9%
安満遺跡	14,960.09m ²	23.5%
今城塚古墳	82,644.40m ²	98.2%
鬮鷄山古墳	16,263.33m ²	78.2%

5.出土遺物保存処理

上土室遺跡出土の金属製品の恒久的な保存を図るため、アクリル系樹脂含浸強化による保存処理をおこなった。

・鉄刀 3点 ・鉄鎌 1点
・青銅製菊花散文鏡

6.しろあと歴史館の収蔵・管理

□展示・保存環境調査報告

しろあと歴史館が、国指定文化財を展示公開することの可能な博物館相当施設としての認定を得るため、独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に、毎月1回、環境調査結果(温度・湿度・偏苛度)を報告し、指導を受けた。

□収蔵品の燻蒸

収蔵する文化財の殺虫・殺カビのため、燻蒸を3回実施した。

実施日：6月1日～3日 11月30日～12月2日 平成16年2月22日～24日

使用薬剤：エキボン

対象：古文書 郷土玩具 美術工芸品 民俗文化財 版本 書籍

□収蔵品の修繕

物件名：「唐獅子図屏風」狩野美信筆 六曲 一双のうち左隻

実施期間：平成16年1月20日～3月25日

修繕内容：絵画面の亀裂や剥離、木縁の破損等を応急簡易修繕。

7.文化財の寄贈・寄託

掘り起こし調査によって、市民等から寄贈・寄託された物件は、以下のとおりである。

寄贈物件 35件865点 主な物件としては

・高槻藩士関係古文書

旧藩士大北家で所蔵されていたもので、二代藩主永井直時書状や徳川家斉黒印状、御当分限帳などを含む

・高槻城鬼瓦

市内下田部に移築されていた旧高槻城の蔵に葺かれていた「一文字三つ星」などの鬼瓦 宮崎家から寄贈

・高階春帆書 掛軸

漢詩集『春帆楼百絶』に所収されている七言絶句の書「金龍晚鐘」「对小園梅花有感」

の2幅 奥村家から寄贈

そのほか、

・婚礼用金屏風

・櫓・櫓

・消防道具 などがある

寄託物件 4件5,329点 主な物件としては

・富田村関係古文書 などがある

8.しろあと歴史館展示資料の購入(図版第3・4)

本市の歴史・文化を新たに発掘し、後世に守り伝えていくとともに、展示資料の充実と調査・研究を進めるため、江戸時代の高槻藩永井家及び藤井竹外に関する資料等を購入した。

物件：①永井直清書幅「五字書」

②永井直寛書幅「十二歳書」

③永井飛騨守書状

④藤井竹外屏風「秋暁」「冬暁澱江舟中」

⑤藤井竹外書幅「芳野」

⑥藤井竹外書幅「掃雪」

⑦摂津国嶋上郡服部村西之河原名寄帳

9.文化財の指定

□大阪医科大学看護専門学校校舎(旧大阪高等医学専門学校別館)

平成15年7月17日付、文部科学省告示第129号 所在地：大学町2-7

種別：登録有形文化財(学校)

登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの 特徴・評価：昭和5年竣工。アメリカ人建築家 ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計による 医学専門学校の別館。鉄筋コンクリート造3階建。玄関部にロンバルディア帯、バトルメント 状の装飾を施し、窓部分には上辺が丸くなった オジーアーチや玉ねぎの形をまねた葱花ドーム などイスラム様式を取り入れており、地域の歴史的建築として親しまれている。

Ⅲ 文化財の普及啓発及び活用

1. しろあと歴史館

□特別展

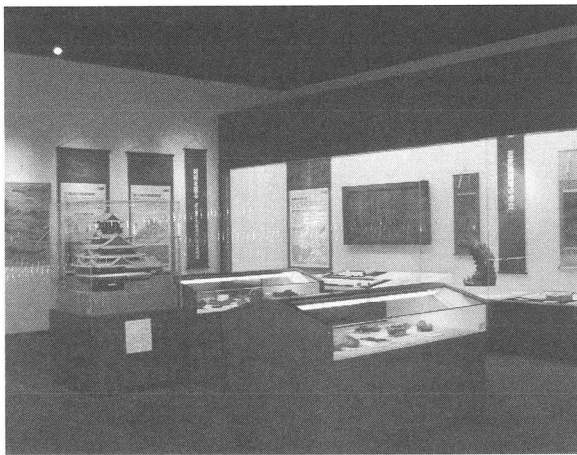
- ・開館記念特別展「天下統一と高槻－安土城・大坂城そして高槻城－」

会 期： 3月30日～5月11日

観覧者数：2,812人

概 要：天下統一へ向けて激動する時代に重要な役割を担っていた安土城・大坂城そして高槻城の三つの城に関する古文書や歴史資料、美術品、あわせて、近年の城郭発掘調査による出土品を紹介した。

主な展示品：安土記（滋賀県立安土城考古博物館蔵）、和田惟政書状（個人蔵）、高山右近允書状（本山寺蔵）、賤ヶ岳合戦図屏風（大阪城天守閣蔵）、高槻城絵図（仏日寺蔵）、高槻城絵馬（野見神社蔵）、安土城出土金箔瓦類（滋賀県教育委員会蔵）、大坂城出土金箔瓦・同陶磁器類（大阪市教育委員会蔵）、高槻城キリシタン墓地出土木棺（本市教育委員会蔵）など49件92点



- ・秋季特別展「高槻の古窯 古曽部焼の世界」

会 期：10月11日～11月16日

観覧者数：1,905人

概 要：高槻ゆかりの古窯・古曽部焼について

日々の生活に用いる素朴な器から、風流な茶道具、華麗な装飾品までの多彩な作品のほか、古曽部窯に関する発掘調査出土資料や古文書なども交えて紹介した。

主な展示品：高槻城主鉄線花定文入菓子器（大阪歴史博物館蔵）、染付芋頭水指（大阪歴史博物館蔵）、蟹耳付辰砂大花瓶（当館蔵）、白釉鼎形小風炉（個人蔵）、色絵笹文煎茶器（個人蔵）、辰砂青磁不遊環花瓶（個人蔵）、染付小鳥絵向付（個人蔵）など73件139点

- ・開館1周年特別展「発掘された埴輪群と今城塚古墳」

会 期：平成16年3月20日～6月20日

観覧者数：7,884人

概 要：今城塚古墳では、日本最大規模の埴輪祭祀場が確認され、家や人物・動物など多彩な埴輪が大量に発見された。開館1周年を記念して、大王陵の葬送儀礼に迫る貴重な埴輪群像を、三島古墳群出土の埴輪や復元CGも交えて一堂に紹介した。

主な展示品：千木を飾る高床の家、魚と鳥の絵を飾る家、両手を捧げ持つ巫女、楽坐の人物、甲冑をまとう正装の武人、力士、水鳥、雄牛などの形象埴輪など 108件127点



□企画展

- ・第1回企画展「わらべ人形と”しん&チョコ”マンガ展」

会 期：7月19日～8月31日

観覧者数：3,205人

概 要：本市の文化財キャラクターを描いたマンガ家ヨシトミヤスオ氏としろあと歴史館のわらべ人形「大名行列」を創作した堀川千代子氏の作品を通じて、ふるさとの原風景と郷土の歴史に触れてもらう。

主な展示品：マンガの原画「ゾウ」「シマウマ」「キリン」「コアラ」、ハニワ工場公園の案内マンガ、わらべ人形「初詣」「春の小川」「夏祭り」と屋台「実りの秋」「かさこ地藏」など50件85点

- ・第2回企画展「初春を彩る郷土玩具」

会 期：平成16年1月4日～2月8日

観覧者数：3,453人

概 要：しろあと歴史館所蔵の郷土玩具コレクションの中から、新春にふさわしい独楽や羽子板などの正月遊具をはじめ、十二支や天神をかたどった張子や土人形など全国各地の郷土玩具を紹介した。

主な展示品：十二支（三春張子）、猿の土人形（木の葉猿・喜々猿・猿ちよろ）、恵比寿と大黒（水原の土人形）、松負天神（三次人形）など125件200点



□分館（歴史民俗資料館）企画展

- ・「高槻の消防展」

会 期：平成14年12月17日～7月13日

- ・「語り継がれてきた伝統産業－木綿と機織り－」

会 期：7月19日～平成16年2月1日

- ・「なつかしの生活具」

会 期：平成16年2月7日～7月25日

□講 座

- ・開館記念特別講座「天下統一と高槻－発掘調査成果にみる統一のあゆみ－」

①4月19日

「天下統一と高槻」

講 師：脇田 修氏（大阪歴史博物館長）

②4月26日

「発掘からみえる安土城」

講 師：小竹森直子氏（滋賀県教育委員会文化財保護課主査）

「天下人と大坂築城－豊臣期の大坂城と徳川期の大坂城－」

講 師：中村博司氏（大阪城天守閣館長）

「近世高槻城の成立－高山右近から永井直清まで－」

講 師：森田克行（文化財課主幹）

パネルディスカッション

「高槻城の歴史的役割を考える」

パネリスト：小竹森直子氏・中村博司氏・

森田克行

司 会：吉村 亨（しろあと歴史館長）

参加者数：186人（全2回）

- ・第1回館長講座「お茶の歴史と習俗」

①5月17日「茶文化の伝来と変革」

②7月26日「喫茶の普及と展開」

③9月20日「庶民の茶－「一服一銭」と門前茶屋」

④11月15日「茶俗の世界(1)－年中行事にみる茶の習俗」

⑤ 1月17日「茶俗の世界(2)ー通過儀礼のなかの茶」

講師：吉村 亨（しろあと歴史館長）

参加者数：165人

・特別展講座「幕末の近畿地方窯と古曽部焼」

11月1日

講師：大槻倫子氏（滋賀県立陶芸の森学芸員）

参加者数：83人

□教室

・わらべ人形づくり教室

7月26・27日（全2回）

講師：堀川千代子氏（わらべ人形作家）

参加者数：59人



・夏休みマンガ教室

8月9日

講師：ヨシトミヤスオ氏（京都精華大学教授）

参加者数：32人

・そばづくり体験教室

8月23日～12月6日

① 8月23日「そばについて学ぶ」

② 9月6日「種をまく」

③ 9月27日「花見と草抜き」

④ 11月15日「収穫」

⑤ 12月6日「石臼ひきとそばがき試食」

講師：草野毅徳氏（神戸学院大学教授）ほか

参加者数：248人（全5回）

・夏休み手作りおもちゃ教室

8月23日

講師：松田夏生氏・本田益雄氏

参加者数：32人

・機織り入門教室

12月13日

講師：北国和子氏（アトリエ北国主宰）

参加者数：32人

□「綿花の苗」の無償配布

しろあと歴史館及び分館の来館者に綿花の苗を無償配布した。

□しろあと歴史館来館者1万人達成について

6月20日に来館1万人目の入館者に記念品を授与した。

1万人目入館者：横井芳男氏・尚子氏（市内在住）

□文化財ボランティア

・文化財ボランティアスタッフの養成

「歴史遺産を活かしたまちづくり」の一環として、市民も含めた積極的な文化財普及活動を進め、地域に根ざした文化財の保護・啓発を協働で行うことを通して、市民の理解と意識の向上をはかっていく。そのため、「ふるさと文化財ボランティア育成計画」に基づき、段階的に育成講座を実施した。

・第1期文化財ボランティア基礎講座

高槻の歴史・文化や今も残る数々の歴史遺産に関する基礎的な知識の習得や自己啓発の機会を提供するため、「歴史の案内人入門」「高槻の歴史入門」「歴史の散策入門」の3コース全12回を開講した。修了証を取得した人は、第2ステップの「文化財スタッフ入門講座」の受講資格を得るほか、市観光協会主催の観光ボラン

ティアコースへも参加することができる。

〈高槻の歴史入門〉

①10月19日「黎明期の高槻」

参加者数：46人

②10月26日「古墳時代の高槻」

参加者数：47人

③11月2日「古代の高槻」

参加者数：47人

④11月9日「中・近世の高槻」

参加者数：47人

①～④講師：森田克行（文化財課主幹）

〈歴史の案内人入門〉

⑤11月30日「仏像—その心とかたち」

講師：井上正氏（京都造形芸術大学教授）

参加者数：43人

⑥12月7日「文化財の鑑賞と基礎知識」

講師：吉村 亨（しろあと歴史館長）

参加者数：47人

⑦12月14日「城郭にみる高槻」

講師：中井均氏（米原町教育委員会参事）

参加者数：49人

⑧1月18日「古建築の見方」

講師：川上 貢氏（京都大学名誉教授）

参加者数：51人

〈歴史の散策入門〉

⑨1月25日「阪急高槻市駅周辺コース」

講師：屋久健二（歴史館）

参加者数：46人

⑩2月1日「阪急富田駅周辺コース」

講師：辰巳大輔（歴史館）

参加者数：43人

⑪2月11日「JR摂津富田駅周辺コース」

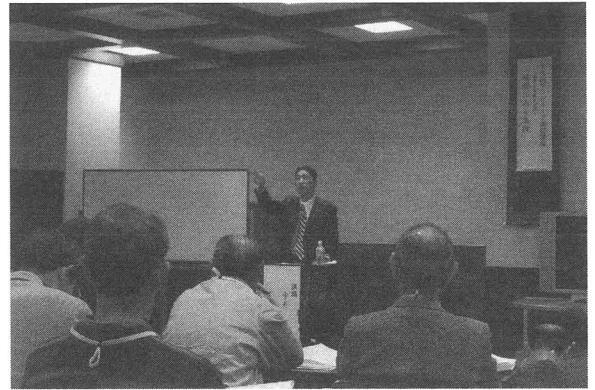
講師：千田康治（歴史館）

参加者数：44人

⑫2月22日「JR高槻駅周辺コース」

講師：西本幸嗣（歴史館）

参加者数：43人



・「文化財ボランティア基礎講座修了証」の発行
基礎講座3コース全12回のうち、10回以上
受講し、修了判定で合格した人に対して「文化
財ボランティア基礎講座修了証」を発行した。

第1期修了証交付 修了人数48人

・文化財ボランティアの主な活動

第7次史跡今城塚古墳現地説明会において、
参加者の誘導案内等のサポートをおこなった。

2.第11回淀川三十石船舟唄全国大会

大阪府指定無形民俗文化財「淀川三十石船唄」の継承、普及、発展を図るため第11回全国大会を実施した。

日程：11月23日

会場：現代劇場中ホール

出場者：251人（ジュニアの部20人）

入場者：650人

共催：淀川三十石船舟唄全国大会実行委員会

3.ハニワづくりとスケッチ・ぬり絵大会

史跡新池ハニワ工場公園にて開催

日程：6月1日

参加者：293人

展示：7月23日～27日（ジャスコシティ高槻にて）

4.現地説明会

□史跡今城塚古墳 7次規模確認調査

日 程：平成16年 2月15日

参加者：4,300人

5.施設見学会の受け入れ

市広報広聴室市民相談センターによる一般市民を対象にした施設見学会を受け入れた。

- ・しろあと歴史館：10件
- ・埋蔵文化財調査センター：4件

6.市内中学校の職業体験の受け入れ

市内中学校からの協力依頼に基づき、体験実習を実施した。

- ・しろあと歴史館：阿武山中学校、第三中学校、第六中学校、冠中学校、第九中学校

7.維持・管理

□「歴史の散歩道」の整備

「歴史の散歩道」のさらなる普及を図るため、各コースの標柱の補修をおこなった。

- ・建て替え：10本
- ・塗り替え：18本

8.文化財の収集及び貸し出し

- ・寄贈文化財 35件 865点
- ・寄託文化財 4件 5,329点
- ・図書の受納 2,692冊(歴史館103冊
埋文センター2,589冊)
- ・掲載許可・貸出 56件 175点
[歴史館16件43点(写真34点 遺物9点)
埋文センター40件132点(写真114点 遺物18点)]

9.文化財公開施設の利用状況

- ・しろあと歴史館 30,716人
- ・歴史民俗資料館(分館) 18,498人
- ・埋蔵文化財調査センター 2,368人
- ・史跡新池ハニワ工場公園 14,705人
- ・青龍三年の丘(安満宮山古墳) 5,022人

2 平成16年度

I 文化財の調査及び研究

1.文化財の調査

文化財保護の基礎資料とするため、文化財保護審議会委員の指導のもと、調査を実施した。

□建造物の調査

・永井神社社殿、唐門

指 導：川上 貢氏（文化財保護審議会委員）

所在地：野見町1146番地

実施日：年間

概 要：前年度の現地調査の成果を受けて、整理作業をおこなった。

・本照寺山門、東門、鐘楼

指 導：川上 貢氏（文化財保護審議会委員）

所在地：富田町4丁目3072番地他

実施日：12月2日

概 要：前年度の現地調査を受けて、整理作業をおこなった。

・三輪神社社殿、絵馬所、末社春日社（図版第2b）

指 導：川上 貢氏（文化財保護審議会委員）

所在地：富田町4丁目3069番地

実施日：平成17年2月15日

概 要：三輪神社の創建は、一説に隣接する普門寺の鎮守社という伝えがあり、また、大和国三輪の大神神社から祭神大己貴命を勧請して創建したとも伝えられている。神社に残る奉加帳序には、寛永14年(1637)に再興されたことが記され、その後、寛延2年(1749)に社殿が修復されたことが棟札に記されている。

本殿は、一間社流造、銅板葺で、切石積基壇上にたち、浜床上に立つ向拝と海老虹梁でつなぎ、風雨から保護するために、本殿の妻側と背面が覆屋で覆われている。覆屋と拝殿は銅板葺の合の間でつなぐれ、拝殿は、入母屋造、本瓦葺で、現状は唐破風造の拝所を付設しているも、

当初には馬道をはさんだ割り拝殿であったことが知られる。

絵馬所は、入母屋造、棧瓦葺で、社殿の北に位置し、梁上の小壁に絵馬額を掲げている。末社春日社は、本殿の南に隣接し、外周りを玉垣で囲んだなかに、小柄の一間社流造、銅板葺の本殿が所在し、技法のうえで本社本殿に比べて簡素な手法を示すが、江戸時代前期にさかのぼる優品として貴重である。

なお、以上3件の調査結果は「高槻市文化財調査報告書第23冊 高槻市建造物調査報告書」として刊行した。また当該物件は、平成16年度第2回文化財保護審議会において市指定有形文化財についての諮問が行われた。(2-Ⅱ-1.文化財保護審議会 参照)

□祭礼の調査

・磐手杜神社 馬祭

指 導：原 泰根氏（文化財保護審議会委員）

実施日：年間

概 要：前年度の現地調査の成果を受けて、整理作業をおこなった。

・八阪神社 春祭

指 導：原 泰根氏（文化財保護審議会委員）

実施日：年間

概 要：八阪神社は高槻市北部の原盆地の北端に近い中村垣内に位置し、祭神は建速須佐之男大神、大穴持命である。

「八阪神社の春祭歩射神事」は、原地区の八阪神社で毎年4月の第1日曜日に執り行われ、通称「大蛇祭^{だいじゃまつり}」と呼ばれている。その記録は寛政12年(1800)の「年中故事」にまで遡り、明治

期までは陰暦の2月8日に行われ、新春に農耕神を迎え祀る祭事であった。また、昭和7年(1932)の「清水村誌」によれば、明治維新の頃に夜から昼間に改められたことが窺える。

祭礼は原地区の「川東」「中村」「西条」「下条」の4つの垣内によって年毎に輪番制で神事番を務め執り行われ、五穀豊穡を願う農耕儀礼として現在まで継承されている。「大蛇祭」という通称は、明治35年(1902)の「神社由緒取調べ」の中に、村人を悩ましていた大蛇を八阪神社の祭神に祈り退治した故事によるとの記述が残されていることや、藁で編んだ大綱を大蛇に見立て、柱丸太に通し神輿の様に担いで練り歩く姿から付けられたという。

祭礼神事は、午前氏子総代による神饌奉納の儀で始まる。午後には神事番一同による渡御行列が神社まで練り歩く。行列は、露払い・金棒・矢執り・矢持ち・弓引き・弓引き補助・氏子総代・自治会長・氏子中が担ぐ大綱の順番で連なり、境内までの道を一進一退を繰り返しながら1時間以上かけて神社に辿り着く。神社に到着後、「三献の儀」を行った後、境内にて「歩射神事」を行う。的場に立てられた2本の松の木に大綱を掛け渡しの的を付け、2人の弓引きが的に向かって交互にそれぞれ5本の矢を射掛けた後、同時に天空に向かって矢を放ちお開きとなる。

神事の特徴は、祭礼の中でおこなわれる「綱掛け神事」と「弓引き神事」、この2つの神事が習合していることにある。寛政12年(1800)の「年中故事」には、2つの神事を習合した姿で記され、江戸時代後期には現在の形式になったことがわかり、今日まで受け継がれている。

なお以上2件の調査結果は「高槻市文化財調査報告書第24冊 高槻市民俗文化財調査報告書」として刊行した。

□掘り起こし調査

実施日：4月1日～3月31日

しろあと歴史館の展示資料の充実及び本市の歴史・文化の発掘のため、文化財の掘り起こし調査を23件実施した。また、広報たかつき10月25日号で「市内に眠る文化財の調査にご協力を」の記事を掲載して、市民に呼びかけ、資料の収蔵・資料化を図った。(2-II-7.文化財の寄贈・寄託 参照)

・特別展開催に伴う掘り起こし調査

春季特別展「高槻が生んだ幕末の漢詩人 藤井竹外」展の開催にあたり、藤井竹外や交流のあった文人に関する資料調査を行い、展示の充実と研究の進展に努めた。

調査先：藤井竹雄氏

大阪歴史博物館・關俊一氏

・高槻藩永井家菩提寺清光院の調査

品川東海寺の塔頭で臨済宗大徳寺派の清光院(東京都品川区)には、石堀に囲まれた約90坪の高槻藩永井家歴代の墓碑が建ち並んでいる。今回は、墓碑約50基について、それぞれの配置と年紀・院号などを調査し、併せて写真撮影による資料化を行った。

実施日：平成16年12月20日(月)

・奥村コレクションの整理

今年度に寄贈された約25,000点(2-II-7.文化財の寄贈・寄託 参照)のうち、主に伏見人形を中心に写真撮影・データ収集に努めた。

2.埋蔵文化財の調査

□平成16年度の調査(表4～6)

平成16年度の土木工事等に伴う埋蔵文化財調査の届出件数は繰越分を含めて73件で、このうち18遺跡について、発掘調査24件、工事立会36件をそれぞれ実施した(表6参照 大阪府が実施した発掘調査1件を含む)。

最も件数が多かったのは鳴上郡衙跡で、発掘

調査11件、立会14件(史跡現状変更を含む)を実施した。このうち保育園増築に伴う調査(2004-B)では、柱穴・小穴等を検出した。当該地の西側では昭和55年度の調査で、弥生時代後期から7世紀後半の遺構を検出し、なかでも奈良時代に属する掘立柱建物が3棟確認されている。今回検出した遺構は、これらと一連の建物とみられるが、調査区の制約から一部の確認に留まった。今後、周辺での調査に慎重を期したい。

高槻城跡では発掘調査2件、立会4件を実施した。このうち帯郭と出丸との間の外堀にあたる調査(2004-D)では、帯郭側の堀の立ち上がりを確認すると同時に、堆積土の観察から外堀が東側に入り込む状況が指摘されており、高槻城の復元にあたり、貴重な資料を得た。

郡家本町遺跡(2004-B)調査では、これまで遺構の分布が予想されなかった南に傾斜する斜面部で柱穴や溝の遺構を検出した。北方の台地上では平成2年及び3年の調査で、8世紀後半の回廊状の建物を含む掘立柱建物群を検出している。今回の調査は狭小な調査区のため遺構の詳細は不明であったが、斜面部にもそれらの建物群と関連する遺構の存在が想定可能であることを示した点で大きな成果といえる。

なお、ミクリ遺跡及び北園遺跡が今年度において新規に発見され、周知の遺跡として取り扱うこととなった。

そこで過去10年間に発見され、周知の遺跡として取り扱っているものを掲げておく。

遺跡名	時代	所在地	発見年度
神宮寺西遺跡	中世	大字田能地内	H11
田能北遺跡	中世	大字田能小字奥ノ谷・上条前・鳥居垣内・下垣内	H12 (範囲拡大)
田能城跡	中世	大字田能小字伊安条・小字奥ノ谷	H12 (範囲拡大)
紅茸山南遺跡	弥生	安満北の町地内	H12
中畑遺跡	旧石器 中世	大字中畑地内	H14
真上窯跡	近世	月見町30番地	H14
北園遺跡	弥生	北園町地内	H16
ミクリ遺跡	古墳 中世	西町地内	H16

3.文化財資料等の刊行

- ・「高槻市文化財調査報告書第23冊 高槻市建造物調査報告書」
- ・「高槻市文化財調査報告書第24冊 高槻市民俗文化財調査報告書」
- ・「平成16年度春季特別展図録 高槻が生んだ幕末の漢詩人 藤井竹外」
- ・「史跡 今城塚古墳―平成15年度第7次規模確認調査―」
- ・「高槻市文化財調査概要32 嶋上遺跡群29」

個人住宅	造成・擁壁・分譲住宅	共同住宅等建物	上・下水道水路	電気・ガス等工事	駐車場・倉庫等	史跡管理	試掘・確認調査	その他	合計
27	5 (1)	7	5 (1)	4 (2)	2	4 (4)	2 (2)	4 (1)	60 (11)

表4 届出地別調査及び立会件数

下段()内は史跡現状変更許可申請に伴うもの

遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計
嶋上郡衙跡	11	14	25	史跡今城塚古墳	3		3	天神山遺跡		2	2
塚原古墳群	1		1	郡家今城遺跡	1		1	高槻城跡	2	4	6
上土室遺跡		1	1	郡家本町遺跡	2	2	4	安満遺跡	1	1	2
史跡闘鶏山古墳	1		1	宮之川原遺跡		1	1	鶴殿遺跡		2	2
鴨神社跡		3	3	大蔵司遺跡		4	4	合計	24	36	60
中城遺跡		1	1	中畑遺跡	1		1				
富田遺跡		1	1	慈願寺山遺跡	1		1				

表5 遺跡別調査及び立会件数

No	遺跡名(地区)	所在地	届出者	用途	面積(m ²)	種別
1	嶋上郡衙跡(2004-A)	郡家新町395-37	柴田昌宏	個人住宅建設	77.68	立会
2	嶋上郡衙跡(2004-B)	郡家本町326-1	郡家保育園	保育園増築	440.28	調査
3	嶋上郡衙跡(2004-C)	郡家本町	高槻市	下水道建設	829.80	調査
4	嶋上郡衙跡(2004-1)	川西町一丁目953-19	福尾利行	個人住宅建設	59.73	立会
5	嶋上郡衙跡(2004-D)	川西町一丁目1093-6	三和住研	分譲住宅	110.20	立会
6	嶋上郡衙跡(2004-E)	郡家本町	高槻市	下水道建設	2627.50	調査
7	嶋上郡衙跡(2004-F)	郡家新町	高槻市	下水道建設	694.19	調査
8	嶋上郡衙跡(2004-4)	清福寺町919-15	井上富美子	個人住宅建設	44.06	立会
9	嶋上郡衙跡(2004-5)	川西町一丁目1093-7	荒木淳一	個人住宅建設	110.19	立会
10	嶋上郡衙跡(2004-6)	川西町一丁目1093-8	高橋潤一	個人住宅建設	110.19	立会
11	嶋上郡衙跡(2004-7)	清福寺町836-1の一部	山本清	個人住宅建設	65.37	調査
12	嶋上郡衙跡(2004-G)	清福寺町15-19地先	関西電力	電柱建替	1.00	立会
13	嶋上郡衙跡(2004-H)	郡家本町425-1の一部	並川正	個人住宅建設	243.67	立会
14	嶋上郡衙跡(2004-I)	郡家本町425-1.2の一部	花田靖	個人住宅建設	155.92	立会
15	嶋上郡衙跡(2004-J)	郡家本町425-2の一部	中園大典	個人住宅建設	120.96	立会
16	嶋上郡衙跡(2004-K)	郡家本町425-1.2の一部	坂上昌治	個人住宅建設	121.02	立会
17	嶋上郡衙跡(2004-L)	郡家本町425-1の一部	坂本広幸	個人住宅建設	132.83	立会
18	嶋上郡衙跡(2004-M)	郡家本町425-1.2の一部	矢野雅信	個人住宅建設	120.16	立会
19	嶋上郡衙跡(2004-N)	郡家本町425-1.2の一部	三輪哲生	個人住宅建設	130.07	立会
20	史跡嶋上郡衙跡(2004-O)	清福寺町909-1他	高槻市教育委員会	フェンス設置工事	フェンス延長77m	調査
21	史跡嶋上郡衙跡(2004-P)	郡家新町760-262-1	松下電器産業(株)照明社	ガス管掘削	掘削距離91m	調査
22	史跡嶋上郡衙跡(2004-2)	郡家新町1138	郡家水利組合	水路改修	24.00	調査
23	史跡嶋上郡衙跡(2004-3)	郡家新町1138	素盞鳴尊神社	擁壁設置	69.00	調査
24	史跡嶋上郡衙跡(2004-Q)	清福寺町982-3	高槻市	便所設置	5.30	調査
25	史跡嶋上郡衙跡(2004-R)	郡家新町760	西日本電信電話(株)	電信柱建替	埋設物口径247mm	調査
26	塚原古墳群(2004-1)	塚原二丁目27-1	(株)富士住建	分譲住宅	142000	調査
27	上土室遺跡(2004-1)	上土室六丁目37他	内外カーボン(株)	駐車場	4,477.20	立会
28	史跡關鷄山古墳(2004-1)	氷室町六丁目1-3他	高槻市教育委員会	確認調査	225	調査
29	鴨神社跡(2004-1)	赤大路町11-24	中川茂一	個人住宅建設	86.25	立会
30	鴨神社跡(2004-2)	赤大路町11-25	筑内泰成・さち江	個人住宅建設	86.25	立会
31	鴨神社跡(2004-3)	赤大路町11-23	久世泰弘・純子	個人住宅建設	86.25	立会
32	中城遺跡(2004-1)	昭和台一丁目107	植村幸二	個人住宅建設	196.42	立会
33	富田遺跡(2004-1)	富田町四丁目489-1の一部	高槻グリーン	事務所建設	83.22	立会
34	史跡今城塚古墳(2004-1)	郡家新町686-1~5	高槻市教育委員会	規模確認調査	680	調査
35	史跡今城塚古墳(2004-A)	郡家新町702-2	高槻市教育委員会	解説板設置	9.00	調査
36	史跡今城塚古墳(2004-B)	郡家新町13-1	高槻市教育委員会	整備工事	4700	調査
37	郡家今城遺跡(2004-1)	今城町17-3の一部	西本純子	個人住宅建設	51.03	調査
38	郡家本町遺跡(2004-A)	郡家本町727-2	大塚久美子	露天駐車場	937.97	立会
39	郡家本町遺跡(2004-B)	郡家本町727-2	大塚久美子	擁壁工事	937.97	調査
40	郡家本町遺跡(2004-C)	郡家本町	高槻市	下水道建設	1272	調査
41	郡家本町遺跡(2004-1)	郡家本町975-1,975-2,976-1	辻本民蔵	個人住宅建設	214.1	立会
42	宮之川原遺跡(2004-1)	宮之川原元町877-1	川上清和	個人住宅建設	106.51	立会
43	大蔵司遺跡(2004-A)	大蔵司二丁目120-4・120-5一部	中根ヒサエ	個人住宅建設	105.99	立会
44	大蔵司遺跡(2004-B)	大蔵司二丁目205-3,205-5	寺澤義春	特定郵便局	219.71	立会
45	大蔵司遺跡(2004-C)	大蔵司三丁目297-5	成喜建設	事務所兼住宅	89.27	立会
46	大蔵司遺跡(2004-D)	大蔵司三丁目297-6	山下英樹	個人住宅建設	100	立会
47	中畑遺跡(2004-A)	大字中畑地内	大阪府北部農と緑の総合事務所	農業基盤整備	3340	調査
48	慈願寺山遺跡(2004-A)	月見町19-3他	三友ハウジング	宅地造成	18815.87	調査
49	天神山遺跡(2004-A)	天神町二丁目10-68	石間美佐子	個人住宅建設	412.28	立会
50	天神山遺跡(2004-1)	天神町二丁目973-13	山本豊	個人住宅建設	90.48	立会
51	高槻城跡(2004-A)	八幡町1048-4・1048-24・1048-25	中川博史	個人住宅建設	208.81	立会
52	高槻城跡(2004-B)	出丸町992-14	宮下サチ子 藤子	個人住宅建設	97.27	立会
53	高槻城跡(2004-C)	城内町2-3	大阪府教育委員会	音楽室増築工事	784.91	立会
54	高槻城跡(2004-1)	野見町424-16他	青山伸行	個人住宅建設	129.52	立会
55	高槻城跡(2004-D)	出丸町990-1他	高城会	老人ホーム	2685.57	調査
56	高槻城跡(2004-E)	野見町1173-7他	(株)リケン	共同住宅	449.81	調査
57	安満遺跡(2004-A)	八丁畷町279-1他	関西電力	電気工事	9822.92	立会
58	史跡安満遺跡(2004-B)	八丁畷町242-1・255-4	高槻市教育委員会	フェンス設置工事	フェンス延長87.5m	調査
59	鶴殿遺跡(2004-A)	鶴殿地先	淀川河川事務所長	土砂掘削	3,500	立会
60	鶴殿遺跡(2004-B)	鶴殿地先	淀川河川事務所長	土砂掘削	15,000	立会

表6 平成16年度調査地一覧

担当者	期間	調査内容
西村	16.4.30	盛土内の掘削
木曾	16.6.10~18	奈良時代とみられる柱穴・小穴等検出するも建物としてのまとまりを欠く 土師器・須恵器出土
木曾	16.8.17~17.3.15	地表下2.2mで黄褐色砂礫の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	16.8.30	※地表下0.5~0.7mで暗黄灰色の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	16.10.1	地表下1.5mで黄灰色粘土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	16.10.4~17.3.15	盛土内の掘削
木曾	16.11.15~17.3.15	盛土内の掘削
木曾	16.11.25	※地表下1.3mで黄灰色粘土の地山確認 遺構・遺物無し。
橋本	16.12.20	※地表下1.5mで黄灰色粘土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	16.12.20	※地表下1.5mで黄灰色粘土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	17.2.23~24	※地表下1.3mで黄褐色土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	17.3.7	既設坑を再利用するため新たな掘削はおこなわず
西村	17.3.22	地表下1.05mで暗灰褐色砂質土の遺物包含層、1.15mで赤褐色砂質土の地山確認 須恵器・土師器出土。
木曾	17.3.22	地表下0.6mで暗褐色土の地山確認 遺構・遺物無し。
西村	17.3.23	地表下0.5mで暗灰褐色粘質土の遺物包含層、0.9mで赤褐色砂質土の地山確認 須恵器・土師器出土。
西村	17.3.23	地表下0.55mで暗灰褐色シルトの遺物包含層確認 須恵器・土師器出土。
木曾	17.3.24	地表下0.95mで暗灰褐色礫土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	17.3.30	地表下0.7mで暗褐色土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	17.3.31	地表下0.6mで暗褐色土の地山確認 遺構・遺物無し。
橋本	16.5.18	史跡現状変更 遺構面に達せず
橋本	16.9.13~15	史跡現状変更 遺構面に達せず
橋本	16.11.1~16	※史跡現状変更 地表下0.5~0.7mで暗褐色土の包含層を確認。掘削は遺構面に達せず。
橋本	16.11.17~12.22	※史跡現状変更 地表下0.2~0.4mで暗褐色土の包含層を確認。掘削は遺構面に達せず。瓦・土器等出土。
橋本	16.11.22	史跡現状変更 遺構面に達せず
木曾	17.2.18	史跡現状変更 遺構面に達せず
橋本	17.2.8~23	横穴式石室をもつ円墳1基の調査
橋本	17.3.24	地表下0.3mで黄褐色土の地山確認 遺構・遺物無し。
高橋	16.6.23~17.1.14	史跡現状変更 くびれ部及び後円部裾部の調査 2段築成であることが判明(第3次確認調査)。本書概要報告掲載
木曾	16.9.27	※地表下0.65mで暗黄褐色粘土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	16.10.20	※地表下0.6mで暗黄褐色粘土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	16.10.21	※地表下0.7mで暗黄褐色粘土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	17.2.14	※地表下0.6mで黄灰色粘土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	16.7.17	地表下0.9mで暗黄褐色土の地山確認 遺構・遺物無し。
宮崎	16.6.24~17.2.28	史跡現状変更 後円部内部に排水溝・墳丘内石積を検出(第8次規模確認調査)。本書概要掲載
宮崎	16.12.10~17.3.31	史跡現状変更 遺構面に達せず
鐘ヶ江	16.12.10~17.3.31	史跡現状変更 内堤・埴輪祭祀場の整備復元工事
木曾	16.10.4	※地表下1.3mで灰白色粘土の地山確認 直上の褐色土に奈良・平安時代の土器が含まれる。遺構無し。
木曾	16.4.6	盛土内の掘削
西村	16.4.20~22	地表下0.9mで灰黄褐色砂層の地山確認 柱穴・溝等検出 須恵器・土師器・瓦器出土。
西村	16.5.24~7.16	地表下0.3~2.1mで暗灰褐色砂質土の地山確認 溝検出 土器出土。
木曾	16.11.8	※地表下0.3mで黄灰褐色礫の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	16.12.20	※地表下0.7mで黄灰褐色粘土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	16.4.13	盛土内の掘削
木曾	16.5.6~12	盛土内の掘削
西村	16.10.5	盛土内の掘削
西村	17.3.1	盛土内の掘削
大阪府	16.6.10~17.2.28	平安時代の掘立柱建物4棟、溝等検出 奈良時代末から平安初期の遺物も出土
橋本	16.6.21	地表下0.2mで赤褐色土の地山確認 遺構・遺物無し。
木曾	16.6.28~30	地表下0.2mで黄灰色粘土の地山確認 遺構・遺物無し。
西村	16.11.15	※地表下0.25m(盛土)で明黄褐色砂質シルトの地山確認 遺構・遺物無し。
西村	16.4.6~8	地表下0.9mで黒褐色粘土の外堀堆積土確認。
木曾	16.5.18	地表下1.0mでも遺構面に達せず
木曾	16.7.21	遺構面に達せず
木曾	16.7.30	※地表下1.2mで廃城時の埋め土とみられる青灰色粘質土を確認 遺構・遺物無し。
西村	17.1.31~2.3	地表下2.8~4mで灰褐色粘土の地山確認 堀の立ち上がりを検出 遺物無し。
高橋	17.2.7~8	地表下2.0m以下で青灰色粘土の外堀埋め立て土を確認。
木曾	17.2.24	盛土内の掘削
橋本	16.5.18	史跡現状変更
木曾	16.4.13~6.1	河床堆積層を確認 遺構・遺物なし
木曾	16.11.22~3.15	河床堆積層を確認 遺構・遺物なし

遺跡別・調査年月日順に配列 ※は高槻市文化財調査概要32「嶋上遺跡群29」に掲載

Ⅱ 文化財の保護及び保存

1.文化財保護審議会

文化財保護審議会委員の選出

任期：平成16年5月8日～平成18年5月7日

文化財保護審議会委員

	氏名	専門
委員長	川上 貢	建造物
副委員長	井藤 徹	学識経験
委員	井上 正	美術工芸
委員	野田 昭三	記念物
委員	原 泰根	民俗文化財
委員	原口 正三	埋蔵文化財
委員	脇田 修	古文書

・第1回：7月14日

- ①役員を選出について
- ②平成16年度事業計画について
- ③しろあと歴史館開館1周年記念特別展について
- ④平成16年度史跡今城塚古墳・史跡鬮鷄山古墳調査について

・第2回：平成17年3月16日

- ①高槻市文化財保護条例の改正について
- ②平成16年度史跡鬮鷄山古墳調査報告ならびに史跡今城塚古墳調査報告・第1次整備工事報告について
- ③平成16年度事業報告・平成17年度事業計画(案)について
- ④市指定有形文化財(建造物)の指定について(諮問)
 - ・永井神社社殿、唐門
 - ・三輪神社社殿、絵馬所、末社春日社
 - ・本照寺山門、東門、鐘楼

2.史跡今城塚古墳保存整備事業

□第8次規模確認調査

史跡整備の基礎データを集積するため、第8次規模確認調査を実施した。調査の結果、後円部南東側では墳丘内石積・排水溝・葺石・円筒埴輪などを検出し、このうち排水溝はあらたにもう1本確認された。また、後円部西側では最も高い部分が当初の墳丘の一部であることが確認され、3段築成の可能性が考えられるようになった。(3-Ⅱ概要報告参照)

調査期間：6月24日～平成17年2月28日

□第1次整備工事(口絵1)

地下遺構を保存しつつ緑豊かな史跡公園として活用するため整備工事をおこなった。今年度は、北側内堤の埴輪祭祀場を中心に築造当初の形状を復元し、内濠沿いの護岸列石(延長約100m)と内堤の円筒埴輪列(56m×2列・復元埴輪238本)を復元した。

工期：11月17日～平成17年3月30日

3.史跡鬮鷄山古墳保存整備事業

□第3次確認調査

史跡整備の基礎データを集積するため、第3次確認調査を実施した。調査の結果、第1段目テラスを挟んで第1段(下段)・第2段(上段)の2段の斜面を検出し、前方部・後円部ともに2段築成であることが確定した。また保存環境調査を昨年度に引き続き実施した。(3-Ⅲ概要報告参照)

調査期間：6月23日～平成17年1月14日

4.史跡の土地の買上げ

史跡保存のため、嶋上郡衙跡附寺跡・安満遺

跡・今城塚古墳・鬮鷄山古墳の土地を買収した。

史 跡 名	16年度末累計面積	公有化率
嶋上郡衙跡附寺跡	16,430.24m ²	16.7%
安 満 遺 跡	19,616.94m ²	30.8%
今 城 塚 古 墳	83,026.12m ²	98.6%
鬮 鷄 山 古 墳	19,962.93m ²	96.1%

5.出土遺物保存処理

出土金属製品の恒久的保存を図るため、アクリル系樹脂含浸強化による保存処理をおこなった。

- ・今城塚古墳出土金銅製飾り板
- ・上土室遺跡出土鉄刀 4点

6.収蔵・管理

□展示・保存環境調査報告

しろあと歴史館が、国指定文化財を展示公開することの可能な博物館相当施設としての認定を得るため、独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に、毎月1回、環境調査結果（温度・湿度・偏苛度）を報告し、指導を受けた。

職員2名を派遣し、展示室・収蔵室の展示・保存環境の報告・協議を行う。

協議日：12月20日

派遣先：独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所

□しろあと歴史収蔵品の燻蒸

収蔵する文化財の殺虫・殺カビのため、燻蒸を2回実施した。

実施日：6月27日～29日 12月5日～6日

使用薬剤：エキボン

対象：新規寄贈・寄託文化財 古文書 郷土玩具 美術工芸品 民俗文化財 版本書籍

□しろあと歴史館収蔵品の修繕

物件名：「唐獅子図屏風」狩野美信筆 六曲一双のうち右隻

実施期間：11月12日～平成17年2月28日

修繕内容：絵画面の亀裂や剥離、木縁の破損等を応急簡易修繕

7.文化財の寄贈・寄託

□掘り起こし調査に伴う寄贈・寄託

掘り起こし調査によって、市民等から寄贈・寄託された物件は、以下のとおりである。

寄贈物件22件45点 主な物件としては

- ・高槻藩士関係武具・書画

旧藩士小倉家で所蔵されていたもので、薙刀・十文字槍や永井直寛書幅「瞿麦（くばく）」などを含む

- ・唐箕、脱穀機など農具

市内庄所町で使用されていた農具

- ・三徳平面選穀機 などがある。

寄託物件119件6,540点 主な物件としては

- ・高槻藩士関係等文化財

旧藩士小宮山家が所蔵する武具・古文書

- ・書画など約250点

- ・藤井竹外関係資料

藤井家伝来の竹外愛用品をはじめ、書幅、和本類など約90点

- ・塚脇自治会所蔵文書 などがある。

□奥村コレクション（図版第5）

昭和30年代後半から収集した全国の郷土玩具及び関連資料約25,000点が奥村寛純氏から平成16年7月5日に寄贈された。これらの郷土玩具は、全国屈指の質と量を誇る伏見人形をはじめ、作成年代が江戸・明治時代にさかのぼるものも数多く、歴史的・文化的にも貴重な資料群である。

8.文化財の指定

□長谷川家住宅主屋

平成16年8月17日付、文部科学省告示第131号

所在地：東五百住町1-6-15

種別：登録有形文化財（住宅）

登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの

特徴・評価：明治初期の木造大型民家（建築面積136㎡）。敷地北部に南面して建ち、西半に座敷4室、東半に土間、北側には台所が配置されている。つし（物置）を2階に設け、屋根は入母屋造・棧瓦葺で、周囲に下屋根を設けている。2階のつし正面に木瓜形の虫籠窓を開けた目立つ外観は、周辺の歴史的な景観に寄与する物件として価値が高い。

Ⅲ 文化財の普及啓発及び活用

1.しろあと歴史館

□特別展

- ・開館1周年記念特別展「発掘された埴輪群と今城塚古墳」

会 期：3月20日～6月20日

観覧者数：7,884人

概 要：開館1周年を記念して、今城塚古墳から出土した大王陵の葬送儀礼に迫る貴重な埴輪群像を、一堂に展示した。(1-Ⅲ-1.しろあと歴史館 参照)

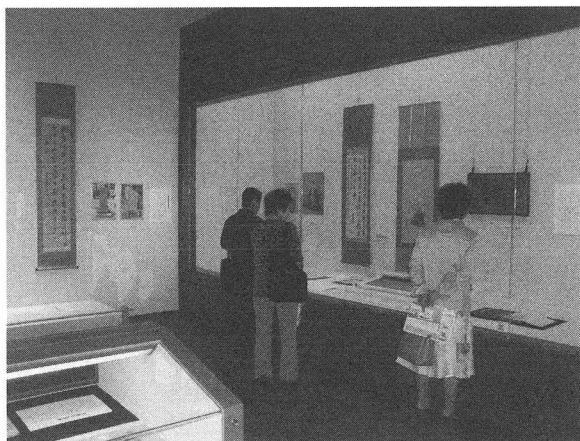
- ・春季特別展「高槻が生んだ幕末の漢詩人 藤井竹外」

会 期：平成17年3月26日～5月29日

観覧者数：1,370人

概 要：幕末の高槻藩士・藤井竹外は「絶句竹外」として世に知られる漢詩人で、「七言絶句」に優れた作品を残している。本展では竹外の詩作や書、藤井家伝来のゆかりの品々をはじめ、大塩平八郎や高階春帆など当時の文人との交流、息子又一（貞臣）の槍術修行などを紹介した。

主な展示品：藤井竹外書「芳野」、藤井竹外書「掃雪」、藤井竹外愛用品、大塩平八郎書状、『竹外亭百絶』、高階春帆書「金龍晚鐘」、槍術廻国修行便覧など52件76点



□企画展

- ・平成16年度取藏品展「くらしを飾る技と美」

会 期：7月17日～9月12日

観覧者数：2,962人

概 要：生活空間を彩った調度品や武具・甲冑など、平成14年度から実施している掘り起こし調査の成果から、暮らしを飾った秀作を通じて、匠が受け継いできた伝統の「技」と、そこから生まれた「美」の世界を紹介した。

主な展示品：山水図屏風、吸物碗、会席膳、高槻藩江戸藩邸絵図、御所車雛形、具足、四季耕作図屏風、櫓、櫓など 46件69点

- ・第3回企画展「歴史へいざなう拓本展」

会 期：10月30日～12月5日

観覧者数：2,515人

概 要：拓本愛好グループ「京都拓美会」(葛西益夫氏・高井満男氏)の協力を得て、道標や歌碑などの石造物を屏風や掛軸、色紙に仕立てた拓本を通じて、歴史へいざなう拓本の世界を紹介した。

主な展示品：「伊勢桜」(高槻市)、「能因歌碑」(高槻市)、「瀬田の夕照」(大津市)、「鳥獣戯画より」(京都市)、「富士には月見草が」(福岡県)、「日々は好日」(吹田市) など 40件40点



・第4回企画展「季節を祝う郷土玩具」

会期：平成17年1月4日～3月6日

観覧者数：4,203人

概要：新春を彩る正月飾りや遊び道具、土製の雛人形や武者人形、張子の虎など季節の行事にまつわる郷土玩具を展示。人びとの生活の中に息づいた郷土玩具の魅力を紹介した。

主な展示品：鶏の土人形(弓野人形)、雛人形(相良人形)、立雛(伏見人形)、武者人形(稲畑人形)、金太郎の人形(葛畑人形)、清正と虎(大浜人形)など 198件

□分館 (歴史民俗資料館) 企画展

・「なつかしの生活具」

会期：2月7日～7月25日

・「四季耕作図屏風にみる農具たち」

会期：7月31日～12月23日

・「写真でみる歴史民俗資料館」・「伏見人形の十二支」

会期：平成17年1月4日～6月12日

□講座

・特別展連続講座「大王陵の実態に迫る」

①4月4日

「今城塚古墳の発掘成果」

講師：宮崎康雄(文化財課主査)

②4月18日

「今城塚古墳の埴輪群像を読み解く」

講師：森田克行(文化財課主幹)

③5月16日

「埴輪のまつりのうつりかわりと今城塚古墳」

講師：高橋克壽氏(独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所主任研究官)

④5月30日

「三島古墳群と今城塚古墳」

講師：和田晴吾氏(立命館大学教授)

⑤6月6日

「古墳時代の祭(まつり)と政(まつり)」

講師：水野正好氏(奈良大学教授)

参加者数：728人(全5回)



・第2回館長講座「いま蘇る『茶湯』の歴史と文化」

①6月4日「正月の大福茶と盃蘭盆の茶湯」

②6月18日「お茶と文化のコミュニケーション」

講師：吉村 亨(しろあと歴史館長)

参加者数：91人(全2回)

・第3回館長講座「洛中洛外図屏風を読み解く—絵画史料にみる中世都市庶民生活誌—」

①10月15日「洛中洛外図屏風」の読み方」

②6月17日「ビジュアルにみる「洛中洛外図屏風」」

③6月19日見学会「上杉本 洛中洛外図屏風(レプリカ)の鑑賞」(京の道資料館)

参加者数：143人(全3回)

・古文書講座—入門編—

①1月12日「古文書からみえる日本史」

②1月19日「幕府の記録にみる忠臣蔵Ⅰ」

③1月26日「幕府の記録にみる忠臣蔵Ⅱ」

④2月2日「幕府の記録にみる忠臣蔵Ⅲ」

講師：野村 玄氏(前大阪大学非常勤講師)

参加者数：154人(全4回)

□教室

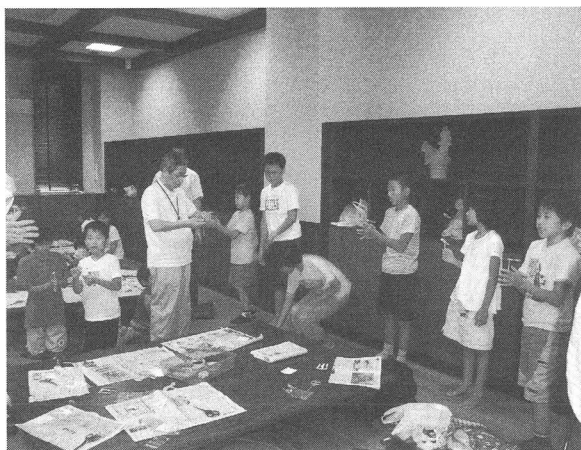
・夏休み子ども工作教室

①8月5日「クリオネ・ガリガリトンボ」

②8月25日「鳴きセミ・紙トンボ」

講師：松田夏生氏・宇津木登代子氏

参加者数：63人（全2回）



・そばづくり体験教室

①8月21日「そばについて学ぶ」

②8月28日「種をまく」

③9月5日「そばの食文化①」

④10月2日「花見と草抜き」

⑤11月13日「収穫」

⑥12月4日「そばの食文化②」

講師：足立泰二氏（大阪府立大学教授）ほか

参加者数：492人（全6回）

・拓本体験教室

①9月30日「館内実習」

②10月1日「館外実習」

講師：葛西益夫氏（京都拓美会主宰）

高井満男氏（京都拓美会会員）

参加者数：24人（全2回）

・親子でつくるおひなさま（城内公民館共催）

平成17年2月26日

講師：玉村時男氏

（高槻市文化財スタッフの会会長）

若原正道氏（折り紙研究家）

・現地公開講座「高槻の山岳信仰と仏像」

平成17年3月5日

講師：近藤真道氏（神峰山寺住職）

百済寂仁氏（本山寺住職）

参加者数：108人

□「綿花の苗」の無償配布

しろあと歴史館及び分館の来館者に綿花の苗を無償配布した。

□新任教員の社会体験活動研修の受け入れ

異職種の体験を通じながら、地域社会と連携し、教員の資質及び能力の向上をはかる研修の一環として、新任教員2名をしろあと歴史館に受け入れ、文化財の普及・啓発活動の研修を実施した。

実施日：8月4・5日

研修教員：萩原久美子（郡家小学校教諭）

大釜雅子（郡家小学校教諭）

□学術研究学会の臨地研究の受け入れ

実施日：6月14日

学会名：古事記学会

観覧者：48人

□文化財ボランティア

・第2期文化財ボランティア基礎講座

①10月31日「文化財の宝庫・高槻の歴史と風土」

講師：森田克行（文化財課主幹）

②11月7日「高槻の民俗」

講師：藤森寛志（歴史館専門員）

③11月14日「高槻の仏像」

講師：滝沢幸恵氏（吹田市立博物館学芸員）

④11月21日「文化財の鑑賞と基礎知識」

講師：吉村 亨（しろあと歴史館長）

〈高槻の歴史入門〉

⑤12月5日「原始・古代のあゆみ」

講 師：宮崎康雄（文化財課主査）

⑥12月12日「古代から中世へ」

講 師：高橋公一（埋蔵文化財調査センター技師）

⑦1月23日「近世のあゆみ」

講 師：辰巳大輔（歴史館専門員）

⑧1月30日「城郭にみる高槻」

講 師：中井 均氏（米原町教育委員会生涯学習課課長）

〈歴史の散策入門〉

⑨2月6日「阪急高槻市駅周辺コース」

講 師：西本幸嗣（歴史館）

⑩2月13日「阪急富田駅周辺コース」

講 師：藤森寛志（歴史館）

⑪2月27日「JR高槻駅周辺コース」

講 師：千田康治（歴史館）

⑫3月6日「JR摂津富田駅周辺コース」

講 師：辰巳大輔（歴史館）

・「文化財ボランティア基礎講座修了証」の発行

基礎講座3コース全12回のうち、10回以上受講し、修了判定で合格した人に対して「文化財ボランティア基礎講座修了証」を発行した。

第2期修了証交付 修了人数43人

・第1期文化財スタッフ入門講座(全5回)

昨年度に「文化財ボランティア基礎講座修了証」の交付を受けた人を対象に、文化財スタッフとして活動するための知識と経験を得るための入門講座を開催した。

①5月15日「文化財と人とのふれあい」

講 師：佐々木峻氏（大山崎ふるさとガイドの会）・田中俊作氏（八尾市立歴史民俗資料館友の会）

②5月28日・29日「展示説明と舞台裏見学」

講 師：歴史館学芸員

③6月11日・12日「調査見学と考古資料の取

り扱い」

講 師：埋蔵文化財調査センター技師・歴史館学芸員

④6月25日・26日「ハニワづくり」

講 師：埋蔵文化財調査センター技師・歴史館学芸員

⑤7月10日「グループワーク」

講 師：歴史館学芸員



・「文化財スタッフ認定書」の発行

入門講座を修了した人に対して「文化財スタッフ認定書」を発行した。

認定書交付 認定人数 40人

・文化財スタッフの設置

市教育委員会が所管する文化財公開施設等におけるボランティア活動を行う「文化財スタッフ」を置くため、平成16年7月8日付けで「文化財スタッフ等設置要綱」を施行した。文化財スタッフは上記「認定書」の交付を受けた人を「文化財スタッフ」として認定する。

・文化財スタッフ研修

文化財スタッフを対象に、より高度かつ実践的な知識・技能を習得してもらい、レベルアップを図るため、研修を実施した。

①9月11日文化財スタッフ研修「スタッフとしての心構え」

②10月21日～24日展示案内リハーサル研修「常設展示案内」

③10月28日・29日企画展研修「歴史へいざなう拓本展」

④1月5日・6日企画展研修「季節を祝う郷土玩具」

⑤2月25日・26日・3月2日・3日古文書勉強会

⑥3月23日～25日特別展研修「高槻が生んだ幕末の漢詩人 藤井竹外」

・文化財スタッフの主な活動

①しろあと歴史館展示案内（平成16年10月30日から開始）

②拓本体験コーナーや昔あそびコーナーでの指導サポート

③館長講座・第2期文化財ボランティア基礎講座・古文書講座・現地公開講座などのサポート

④現地説明会のサポート

第3次史跡鬮鶏山古墳現地説明会

第8次史跡今城塚古墳現地説明会

2.第12回淀川三十石船舟唄全国大会

大阪府指定無形民俗文化財「淀川三十石船舟唄」の継承、普及、発展を図るため第11回全国大会を実施した。

日 程：11月23日

会 場：現代劇場中ホール

出場者：251人（ジュニアの部22人）

入場者：650人

共 催：淀川三十石船舟唄全国大会実行委員会

3.ハニワづくりとスケッチ・ぬり絵大会

史跡新池ハニワ工場公園にて開催

日 程：平成16年5月29・30日

参加者：855人

展 示：7月28日～8月1日（ジャスコシティ高槻にて）

4.現地説明会

□史跡鬮鶏山古墳第3次確認調査

日 程：11月28日

参加者：525人

□史跡今城塚古墳第8次規模確認調査

日 程：平成17年2月20日

参加者：1,408人

5.施設見学会の受け入れ

市広報聴室市民相談センターによる一般市民を対象にした施設見学会を受け入れた。

・しろあと歴史館：3件

・埋蔵文化財調査センター：3件

6.市内中学校の職業体験の受け入れ

市内中学校からの協力依頼に基づき、体験実習を実施した。

・しろあと歴史館：第八中学校・阿武山中学校・第六中学校・芝谷中学校・第三中学校・第一中学校・第二中学校・第九中学校

・埋蔵文化財調査センター：第九中学校

7.維持・管理

□「歴史の散歩道」の整備

「歴史の散歩道」のさらなる普及を図るため、各コースの説明板・標柱の補修をおこなった。

・建て替え：説明板1基 標柱4本

・塗り替え：標柱18本

□ハニワ工場映像展示機器の更新

ハニワ工場内の映像展示機器が老朽化したため、映像展示システム機器を更新した。

・42型プラズマディスプレイ

・DVDプレーヤー等

□ハニワ工場公園復元建造物の修繕

ハニワ工場公園復元建造物が台風によって被

害を受けたため、修繕をおこなった。

- ・ 1号工房：上屋根（茅葺）及び下屋根（杉皮葺）の修繕
- ・ 2号工房：下屋根（杉皮葺）の修繕
- ・ 1号窯：主屋根（茅葺）及び焚き口庇（杉皮葺）の修繕
- ・ 2号窯：主屋根（茅葺）及び焚き口庇（杉皮葺）の修繕

ハニワ工場公園の補植

工場公園内の枯れた植栽（つつじ）や、剥げ落ちた芝生について、補植をおこなった。

8.文化財の収集及び貸し出し

- ・ 寄贈文化財 22件 45点
- ・ 寄託文化財 118件 493点
- ・ 図書の受納 2,489冊（歴史館337冊
埋文センター2,152冊）
- ・ 掲載許可・貸出 70件623点
[歴史館19件348点(写真60点 遺物288点)
埋文センター51件275点(写真124点 遺物
151点)]

9.文化財公開施設の利用状況

・ しろあと歴史館	31,165人
・ 歴史民俗資料館（分館）	16,929人
・ 埋蔵文化財調査センター	2,430人
・ 史跡新池ハニワ工場公園	15,758人
・ 青龍三年の丘（安満宮山古墳）	4,887人

3 概要報告

I 上土室遺跡(2002-A)の調査

橋本久和

上土室遺跡は高槻市西部の上土室六丁目2に所在し、小字名は長山である。遺跡は阿武山から南東に派生する標高40~50mの丘陵南側斜面に位置し、周辺には阿武山古墳をはじめ塚原古墳群、新池埴輪製作遺跡などがある。安威川を挟んだ茨木市安威地区を含め大阪北部で著名な遺跡の集中する地域である。昭和61年度に遺構確認調査を実施したところ古代・中世の古墓群であることが判明した(高槻市教育委員会編『高槻市文化財年報昭和61・62年度』)。今回、宅地造成工事に先立ち、平成14年7月2日から平成15年4月30日にかけて、届出地東側(A区)と中央部(B区)に調査区を設定して発掘調査を実施した(口絵2 図1・2)。

A区の調査

遺構は調査区北部の斜面上方に散在していた(図3)。茶毘跡とみられる土坑1(図5)は直径約1.5m、深さ0.3mを測る円形土坑の中央部に幅0.35mの溝が掘削され、坑内は焼土・炭が充満し、骨片が認められた。出土遺物は無く時期は確定できない。土坑2は長さ3.5m、幅2mの不定形を呈し、埋土から須恵器等が出土し奈良時代とみられる。この調査区では樹木の伐採痕とゴミ投棄穴が多数存在し、斜面下方では明確な遺構は確認できなかった。

B区の調査(図版第6・7)

調査区の四隅では古墓の検出が少なく、東西・南北とも約90mの範囲内に、主軸を南北方向とし、等高線に沿い数基ずつが造営されている(図3)。検出された古墓は1,463基を数え、土葬墓1,210基と火葬墓253基に大別できる。土葬墓は長さ1.5m、幅1m程度で、木棺の痕跡や釘が出土しない土坑墓と釘や棺を固定する石が検出される木棺墓に分けられる。図5のB区98・99では木棺の外形

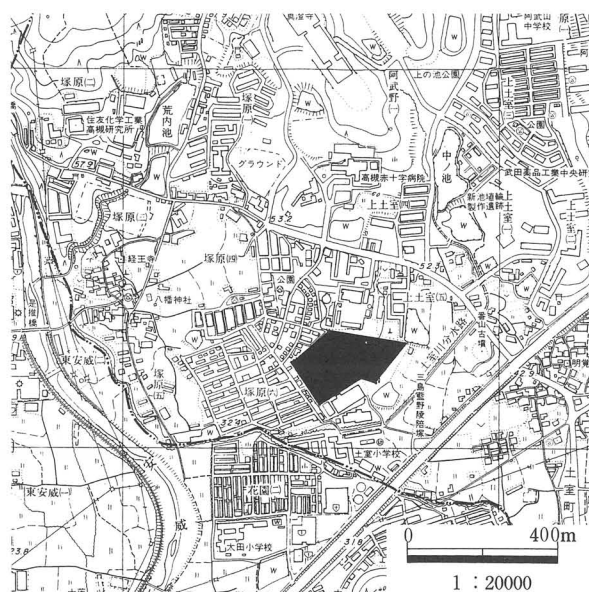


図1 上土室遺跡(2002-A)調査位置図

を示すように釘が検出された。図4のB区684・737、図5のB区97、図版7のB区194・1096のように盛土上に置かれた塊石が墓内に転落し、刀子が副葬されている状況がしばしばみられた。

火葬墓は骨片の認められるものが多く、図4のB区441のように土葬墓よりやや小型のもの、図5のB区201・1007のように比較的大型のものがある。焼土がみられるだけのものもあるが、図示したものは周囲に焼土や炭が確認でき底部に石を並べ棺台とする。B区201では刀子が出土している。古墓群の全域に拡がるが、東・南にやや集中し外辺部を中心に設けられている。他に瓦質羽釜を転用した骨蔵器数点と調査区南隅で幅約1mの溝が「コ」状に掘削された状態で検出されている。

出土品には鏡、刀子、鎌、古銭、硯、土製数珠玉などがある。また、龍泉窯系青磁碗が単独で出土している。時期を特定できる土器類の出土は極めて少ないが土葬墓は鎌倉時代、火葬墓には土葬

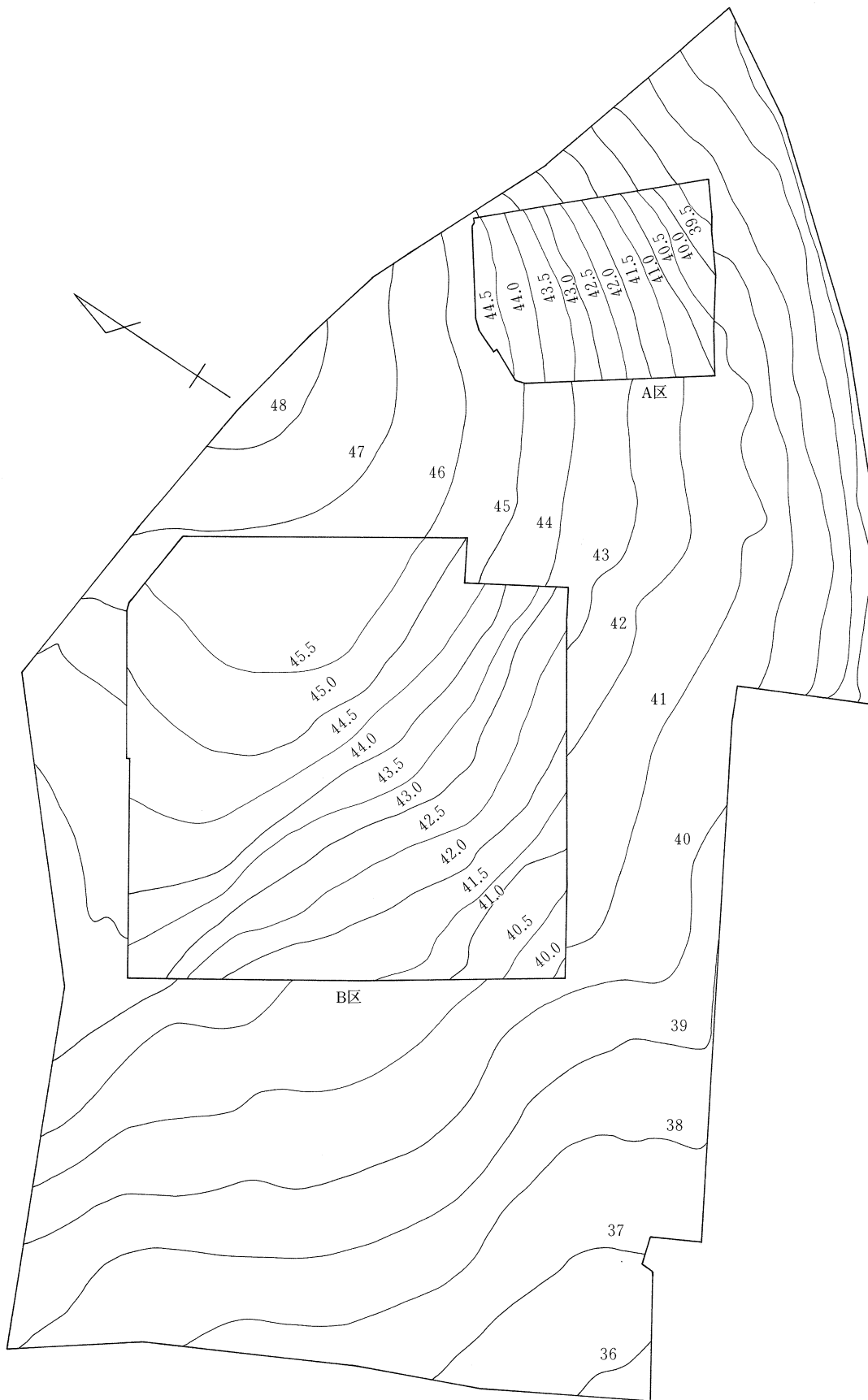
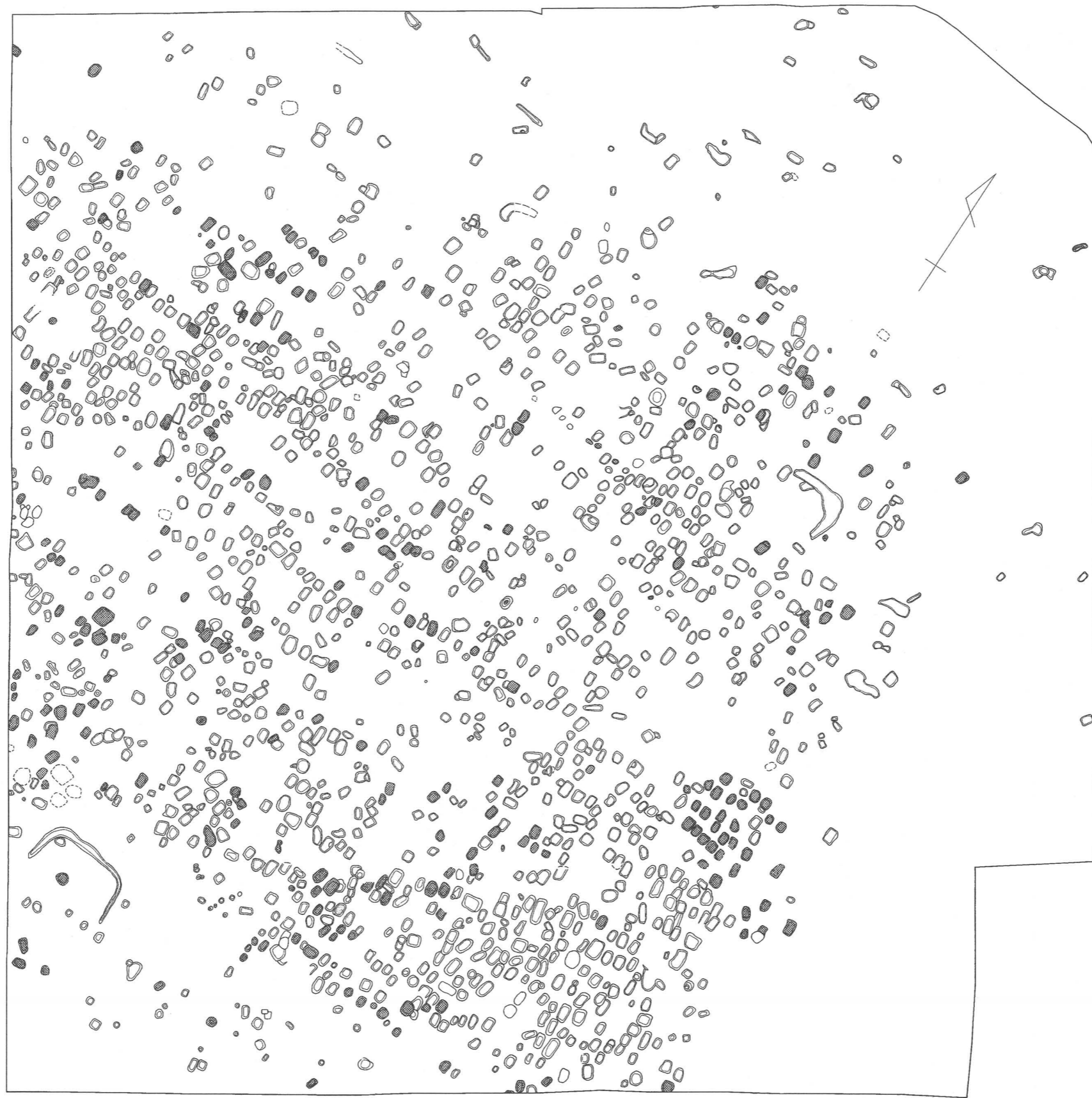


図2 調査区の地形測量図



0 20m

火葬墓

图3 B区平面图

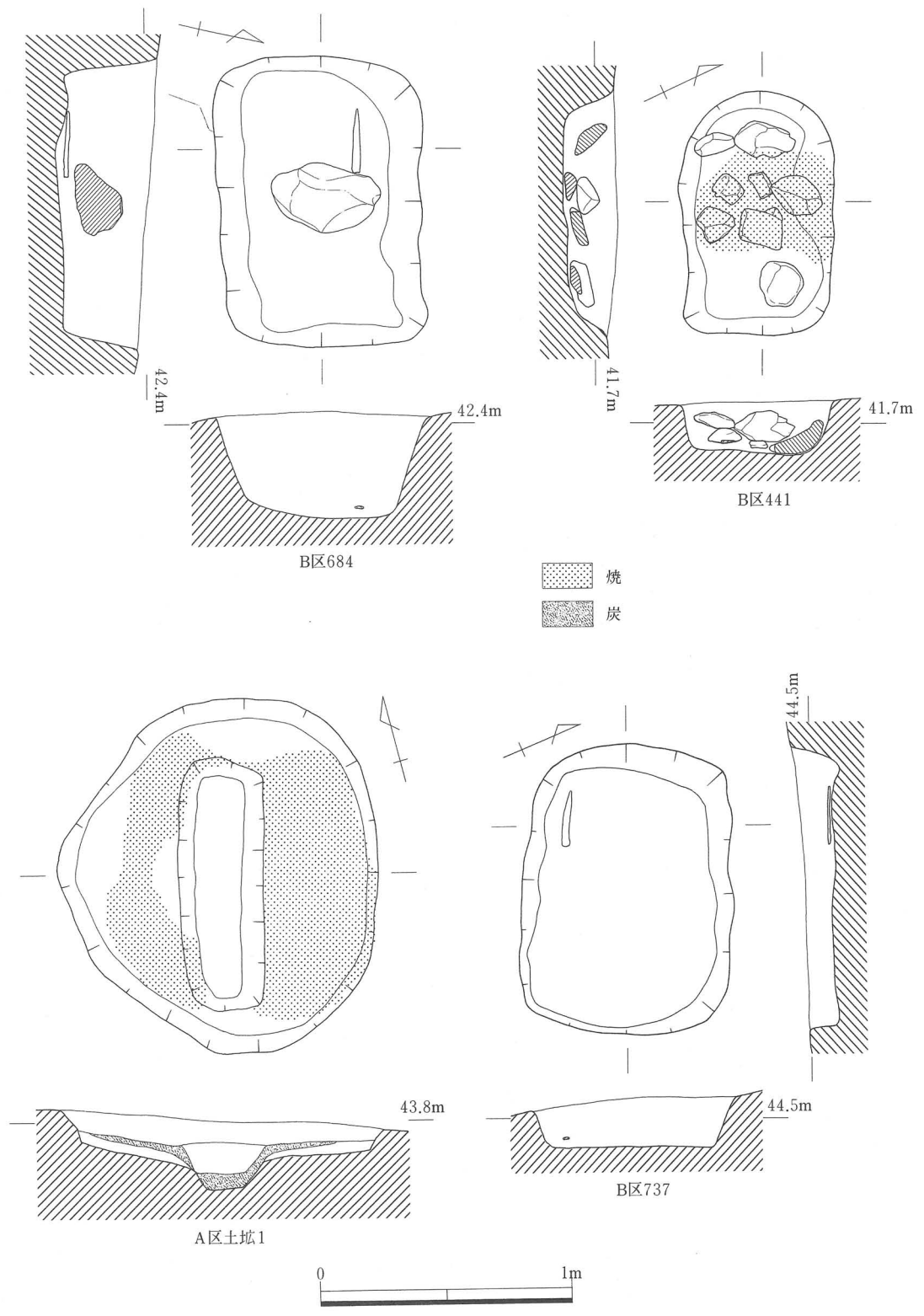


图4 古墓实测图 (1)

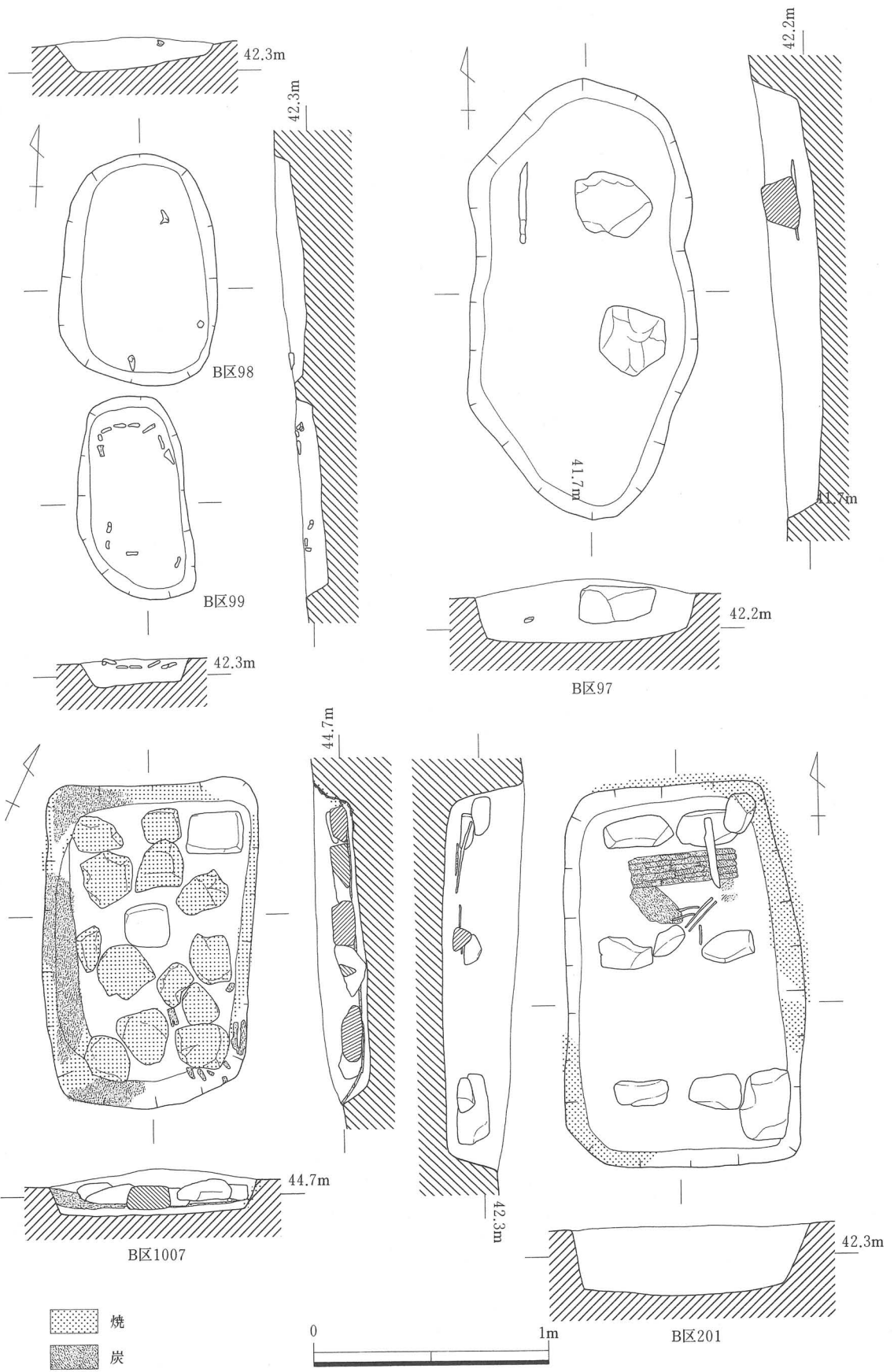


图5 古墓实测图 (2)

墓より後に掘削されたものがあり南北朝・室町時代前期と考えられる。

まとめ

大阪北部の中近世古墓群として本市の岡本山古墓群B地区（高槻市教育委員会編『高槻市文化財年報 昭和56・57・58年度』、茨木市栗栖山南墳墓群（大阪府文化財調査研究センター編『栗栖山南墳墓群』）が知られている。土葬墓から火葬墓への移行など両遺跡の古墓検出状況・古墓の構造は上土室遺跡と共通するところが多い。

岡本山古墓群ではB地区から離れた場所に中国製陶磁器等の骨蔵器を納めた墓域が形成され、古墓群内部での階層分化が顕著である。上土室遺跡

では硯や鏡等を副葬したものもあるが、地域を異にして墓域を形成することはなく、周辺地域の集団墓地として造営されたものとみられる。

記録では源平争乱期に法金剛院領土室庄下司が平家家人として争乱に参加し、その後、鎌倉幕府により比叡山東塔北谷法師常陸房正明が土室庄地頭職に補任されているため、造営主体を遺跡南東の土室地域に求めるのが妥当と考える。なお、今回検出された古墓を土葬墓と火葬墓に大別したが、後者の収骨の問題もあり今後詳細な分類と出土遺物の検討を加えたい。

Ⅱ 史跡今城塚古墳第7・8次規模確認調査

宮崎 康雄

今城塚古墳は6世紀前半に築かれた淀川流域最大の前方後円墳である。整備のための規模確認調査を平成9年度から進めており、平成15年度(第7次)と平成16年度(第8次)には後円部とくびれ部、南北造出の状況を把握するための調査を実施した。

調査の概要(口絵3 図版第8)

後円部のテラスや円筒埴輪列、葺石の有無等を確認するため、後円部上面と南東～南西側斜面、南北くびれ部から造出にかけて調査区を設定した。

後円部一段目の墳丘傾斜角は約24度である。南くびれ部付近では一辺20～80cmの川原石を用いた内濠の護岸列石があり、一定のレベルに沿って大形の石材を並べるのが特徴的である。大部分は地震等の影響を受けて現位置を保っていない。

墳丘中位の緩斜面地では、川原石を積み上げた2段目墳丘の葺石とテラスを検出した。テラスは幅4.5m、外縁から約1m内側で円筒埴輪列が巡る。いずれも基部のみ遺存し、南側で検出した10点中5点の円筒埴輪には、2本マストの船のヘラ描きが認められた。

葺石は人頭大の川原石を用い、裾はテラス沿いに緩やかな弧を描く。南東側は基底石をテラス上面の覆い土に埋め込み、南側ではテラス面から積み上げていた。現存高は約1.5m、径20～40cmの川原石を用い、下半部を60度前後、その上方は15～20度で積み上げていた。

後円部上面で検出した墳丘内石積は、盛土内に人頭大の川原石の小口面をそろえて規則的に積み上げたもので、地震や地滑りに伴う崩落や陥没が各所に見られる。裾の平面形は緩やかな弧状を呈し、裾の標高は全体に北側が高く、南側に向かってわずかに下降し、その最深部には排水溝1が取



図1 史跡今城塚古墳調査位置図

り付いていた。現存高約1.3m、斜面角度は約40度である。

排水溝1は墳丘内石積の裾からテラスまで直線状にのびる石組み溝である。墳丘内石積の取り付け部から墳丘斜面方向に約4.5mの間はほぼ水平にのび、排出口に向かって約20度の傾斜で下降する。流入部は底石と側石を据えて蓋石を横架した構造で、内法は幅約35cm、高さ約25cmをはかる。内部には砂や砂質粘土が詰まり、底石や側石には酸化鉄が付着していた。テラス側排出口は平らな石を並べて底と側壁をつくり、蓋石をかけた暗渠構造で、先端は葺石基底部より最大0.85m突き出していた。先端部の内法は幅・高さとも0.25～0.3mである。排水溝両端の高低差は約3.8m、総延長は約15mである。

排水溝2は排水溝1の8.1m南側にあり、葺石斜面に組み込まれた排水口周辺部のみ遺存していた。排出口の内法は幅17cm、高さ20cmで周囲の葺石には酸化鉄が付着する。

墳丘上面では地滑りによって形成された落ち込みが数条あり、斜面や底に石材がまとまっていた。葺石や墳丘内石積とは異なり、花崗岩類を多く含むのが特徴的である。また、上面一帯からは淡路島より運ばれた可能性の高い泉南酸性凝灰岩の円礫が多数出土した。

後円部西側に残る高まりは、墳丘か後世の造作かを知るために断ち割ったところ、築造当初の盛土であることが判明した。上方からの地滑り跡がみられることから、墳頂はさらに高所にあり、前方部より高くなる可能性がでてきた。

北造出は裾が南北約19m、東西約35mの長方形を呈し、現存上面は南北約10m、東西約15mを測る。盛土の滑落により、本来の高さは不明である。

新たに確認した南造出は北造出とほぼ同規模で、内濠水際には人頭大の川原石を平置きした護岸列石が残る。斜面からは円筒埴輪や須恵器（蓋杯・甕・器台など）の小片がわずかに出土したが、北造出と同様に形象埴輪はみられなかった。

前方部では墳頂部北側と西側へむかう地滑り跡を確認した。西側への地滑り跡では、円筒埴輪の底部が南北に連なり、また頂部上面でも埴輪片が出土した。

まとめ

今城塚古墳の後円部墳丘では葺石やテラス、円筒埴輪列などを初めて検出し、一段目基底面の裾が直径100m、二段目葺石裾が径約72m、テラス外縁は約80mに復原できた。後円部高は約11mであるが、現況最高地点が墳丘の一部であることを確認し、盛土の地滑り状況から本来の墳頂がさらに2m以上高かったことが判明した。後円部の段築は2段としてきたが、今回の調査結果からは3段築成となる可能性も浮上してきた。

墳丘内の構造物については、排水溝1・2の確認から、複数の排水溝が墳丘内石積・葺石と一体で存在したことを確認した。一方で上面の石材群は材質や検出状況が墳丘内石積とは異なり、両者は別の目的や基準のもとで施工したと考えられる。

くびれ部は基底部分の南北間距離が約52mをはかる。前方部側に設えた造出は、墳丘北側だけの存在としてきたが、南北両側に築かれた中期的な形状の後期古墳であることが判明した。ただ、中期古墳で主要な埴輪祭祀の場となる造出に形象埴輪がなく、須恵器などがみられることから、これらを中心とした祭祀が行われていたと考えられる。

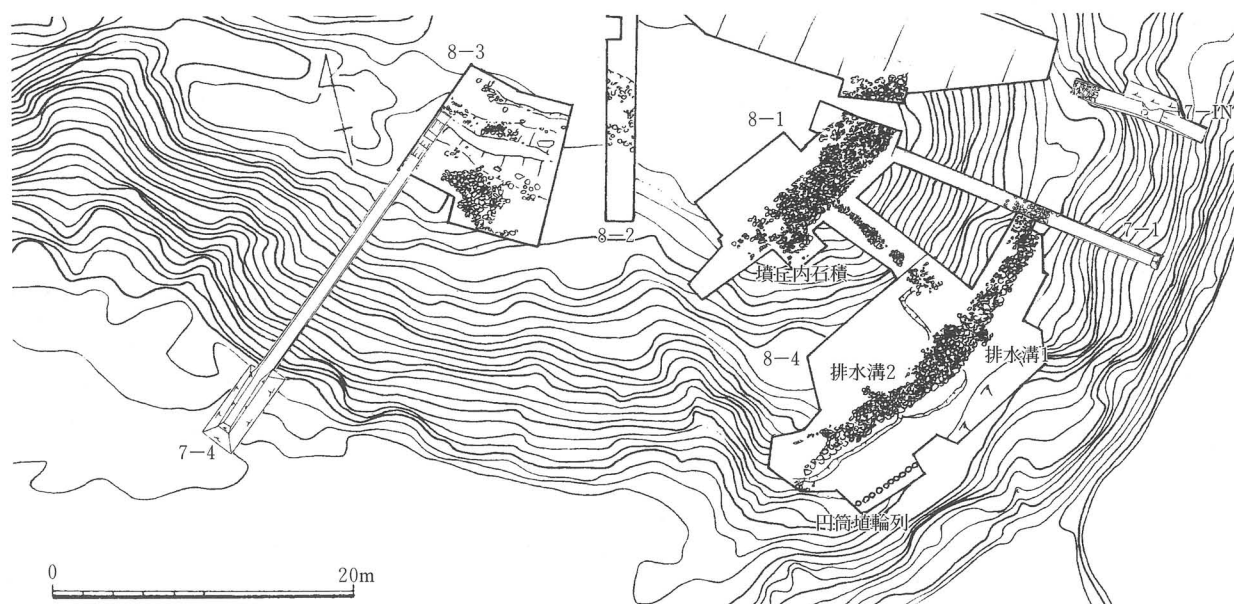


図2 遺構概略図（後円部南側）

Ⅲ 史跡鬮鷄山古墳第2・3次確認調査

高橋 公一

鬮鷄山古墳は、平成14年の調査によって未盗掘の竪穴式石槨2基をそなえた古墳時代前期前半(4世紀前半)の前方後円墳であることが明らかとなり、同年に国史跡の指定を受け、恒久的な保存が図られている。

高槻市では鬮鷄山古墳の保存整備に向けて、継続的に確認調査を実施している。

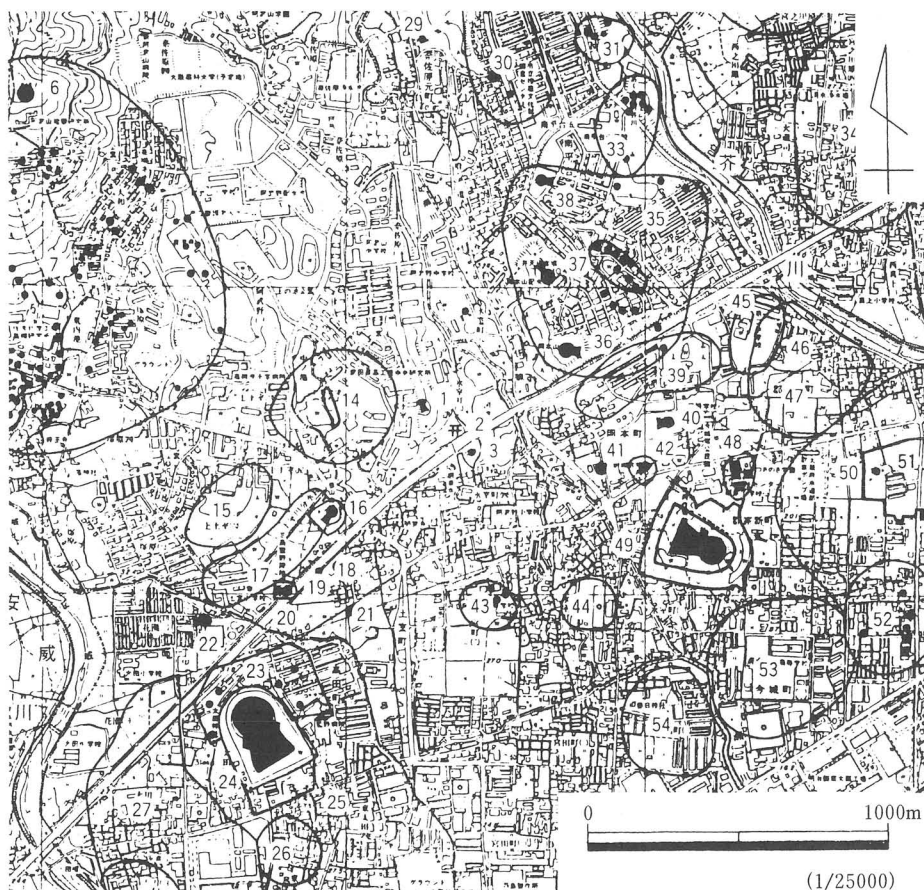
[第2次-平成15年度] (図版第9a)

後円部と前方部の頂部形状の把握を目的として実施し、後円部墳頂と前方部平坦面を覆う礫敷を検出、さらに竪穴式石槨の墓壙を確認した(面積537m²)。

礫 敷 後円部墳頂では墳丘の遺存状況が良好な北西部分に、前方部平坦面では調査区のほぼ全面にわたり礫敷を検出した。後円部では拳大以下の亜角礫が密集し、第2主体の上部を覆う盛土の上面で検出しており、礫敷の設置時期は第2主体構築後とみられる。前方部礫敷も拳大以下の亜角礫で、前方部北半では密集度は高いが、南部付近ではやや粗い。

墓 壙 後円部墳頂において、第1主体及び第2主体の両竪穴式石槨の墓壙を確認した。第1主体墓壙は後円部墳頂中央の大半を占有し、東辺部南半から東南隅部及び西南隅部と、土層断面で確

- 1 鬮鷄山古墳
- 2 鬮鷄野神社
- 3 鬮鷄山A-1号墳
- 4 片ヶ谷古墳群
- 5 桑原古墳群
- 6 史跡阿武山古墳
- 7 塚原古墳群
- 8 塚原遺跡
- 9 安威古墳群
- 10 安威砦跡
- 11 安威城跡
- 12 安威遺跡
- 13 耳原遺跡
- 14 史跡新池遺跡
- 15 上土室遺跡
- 16 番山古墳
- 17 土室遺跡
- 18 石塚古墳
- 19 土保山古墳
- 20 二子山古墳
- 21 高樋古墳
- 22 石山古墳
- 23 太田茶白山古墳培塚
- 24 太田茶白山古墳
- 25 太田北遺跡
- 26 太田廃寺
- 27 太田遺跡
- 28 太田城跡
- 29 殿岡神社古墳
- 30 墓谷古墳群
- 31 唐井谷古墳群
- 32 宮之川原遺跡
- 33 尼ヶ谷古墳群
- 34 大蔵司遺跡
- 35 弁天山古墳群
- 36 岡本山古墳
- 37 弁天山古墳
- 38 弁天山C1号墳
- 39 岡本山古墓群
- 40 郡家車塚古墳
- 41 上水室遺跡
- 42 前塚古墳
- 43 ツゲノ遺跡
- 44 水室遺跡



- 45 上野遺跡
- 46 芥川廃寺瓦窯跡
- 47 郡家本町遺跡
- 48 狐塚古墳群
- 49 史跡今城塚古墳
- 50 芥川廃寺
- 51 史跡嶋上郡衙跡
- 52 川西古墳群
- 53 郡家今城遺跡
- 54 宮田遺跡

図1 史跡鬮鷄山古墳と周辺の遺跡

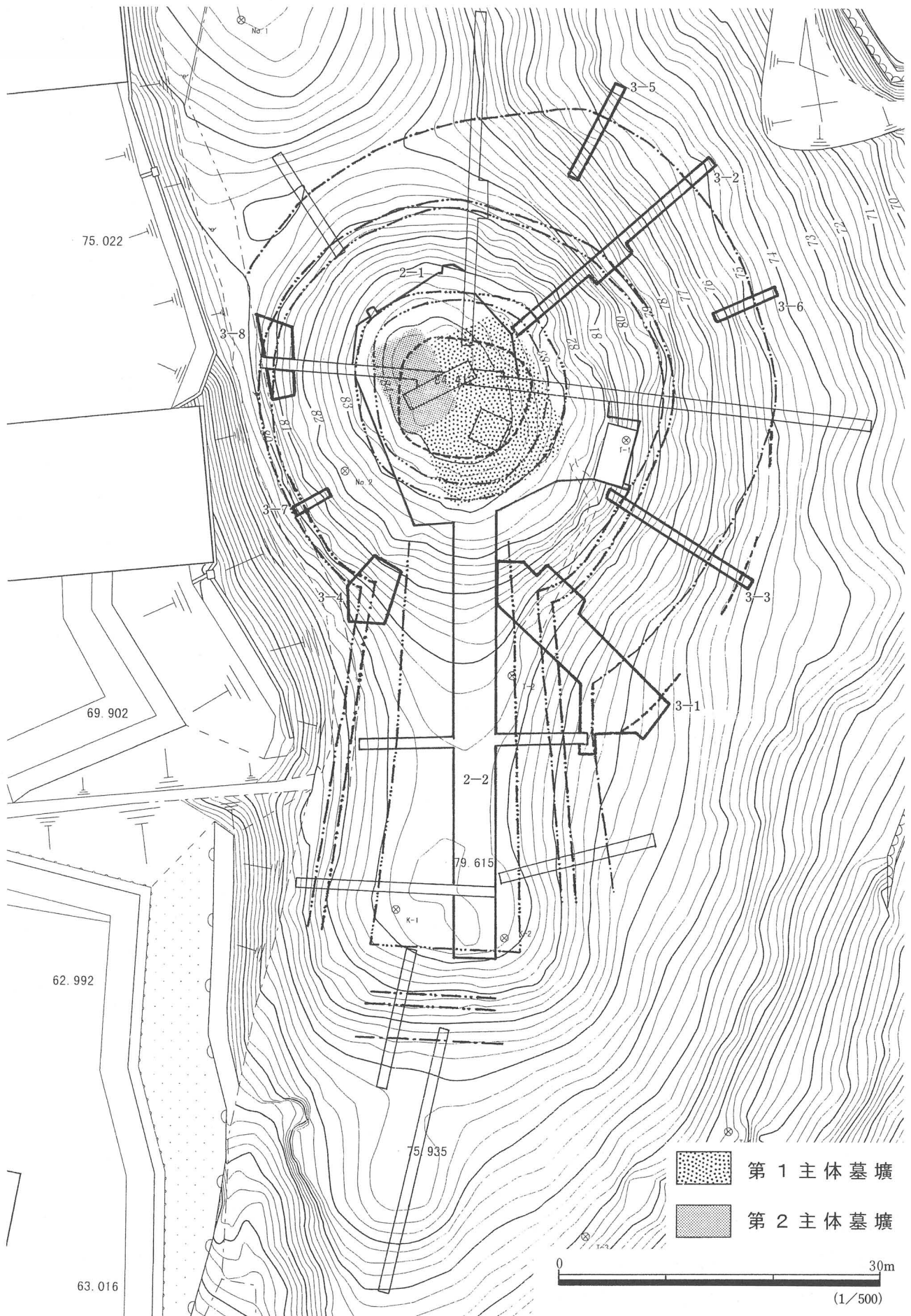


図2 第2次・3次調査区及び道場配置図

認した北辺の一部で検出したが、礫敷を伴う盛土が存在する西北部では確定できなかった。規模は南北14.5m、東西10~11mで、掘り込み角度は約43度を測る。第2主体墓壙は墳頂の西北に位置する。墓壙直上に礫敷を伴う盛土がなされたため、西辺部南半から西南隅部と、土層断面で確認した北辺の一部の検出にとどまるが、14年度調査の成果とあわせて、規模は南北8m、東西5mに復元できる。掘り込み角度は約60度である。

[第3次-平成16年度] (口絵4 図版第9b)

東西の両くびれ部と後円部周辺に8ヶ所の調査区を設定して実施し、第1段目テラスを挟んで第1段(下段)・第2段(上段)の2段の斜面を検出したことから、2段築成であることが確定した(面積225m²)。

第1段 東くびれ部前方部側で、斜面裾でやや大きな基底石(直径約15cm)を検出したことで、古墳の裾部分が確定できた。後円部側では東側に傾斜する斜面にやや粗い密度で分布する葺石が広がり、明確な基底石を認めることができない。後円部東側では確認した傾斜変換点から後円部東側裾ラインを想定し、半径は29~31.5mで、復元直径は60m前後とみられる。

第1段目テラス くびれ部では前方部側(南側)から後円部側(北側)へなだらかに上る。幅はくびれ部で1.5~2.0m、これ以外は、1.0~1.5mである。また西くびれ部と後円部西側では上面に直径10cm以下の礫を隙間なく敷き詰めていた。

第2段 第1段目テラスに接する後円部の最下段には一回り大きな基底石(直径25~30cm)を据える。前方部葺石は後円部に比べやや小ぶりの石を使用する。各調査区の位置関係から、後円部第2段斜面基底部の直径は約37m、第2段基底部における東西両くびれ部の距離は約14.6mである。

石敷遺構 後円部東南側の第1段裾部に接する平坦面において、裾部から約3mの範囲に直径約15cm以下の石を敷き詰めた石敷を検出した。

遺物 15・16年度ともに、墳丘崩落土から土師器片が出土した。壺形土器の頸胴部で、内外面に赤色顔料を塗布するものもみられる。

石槨内の温度・湿度 平成15年12月20日から石槨内温度・湿度を連続測定している。平成17年度末までで、最高温度は第1主体が21.5℃(平成16年10月)、第2主体が24.3℃(平成16年8月)、最低温度は第1主体が13.8℃(平成16年4月)、第2主体が11.5℃(平成17年2月)である。湿度はともに98%程度の高湿度を記録している。

[まとめ]

第2次調査で、2つの石槨の墓壙規模が判明したことは非常に重要であり、今後の調査及び整備について、大きな指針となる。また、前方部平坦面の礫敷が古墳構築のどの段階で敷設されたのかは不明であり、今後の課題である。

第3次調査においては、くびれ部で第1段目テラスを挟んで第1段(下段)・第2段(上段)の2段の斜面を検出したことにより、鬮鷄山古墳は前方部・後円部ともに2段築成であることが確定し、各部の形状や規模が明らかになった。今回明らかになった古墳の各部のデータは鬮鷄山古墳の立面形や平面形を復元する上での基本的なものであり、これらのデータが得られたのは非常に大きな成果といえる。また、テラス上面にも礫敷が検出され、墳頂平坦面を含めて全体が礫で覆われていた可能性がでてきた。

さらに後円部東南側には古墳に接して石敷が存在することが判明し、敷設の時期や範囲、性格なども今後の課題となった。くびれ部に隣接することを重視すると、祭祀的な空間としての利用が想定できよう。

石槨内の温度・湿度をおよそ15ヶ月間連続測定したことで、気候が主体部に与える温度や湿度の状況の一端が把握できた。連続測定は平成17年度も続行し、石槨内の環境変化をモニターしていく予定である。

版 图



a. 永井神社 拜殿附拜所



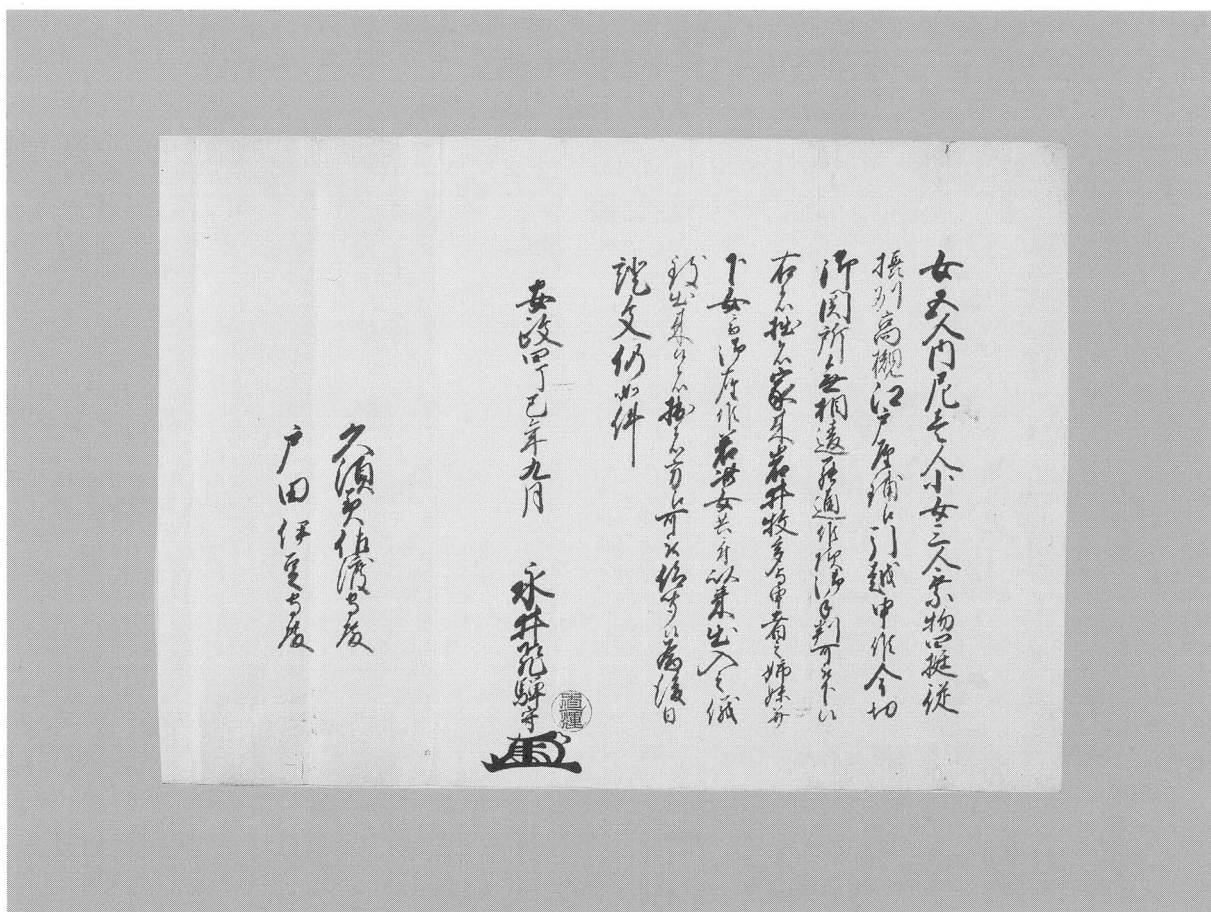
b. 永井神社 唐門



a. 本照寺山門



b. 三輪神社拜殿附拜所



a. 平成15年度 新収蔵文化財(購入) 永井飛彈守書状



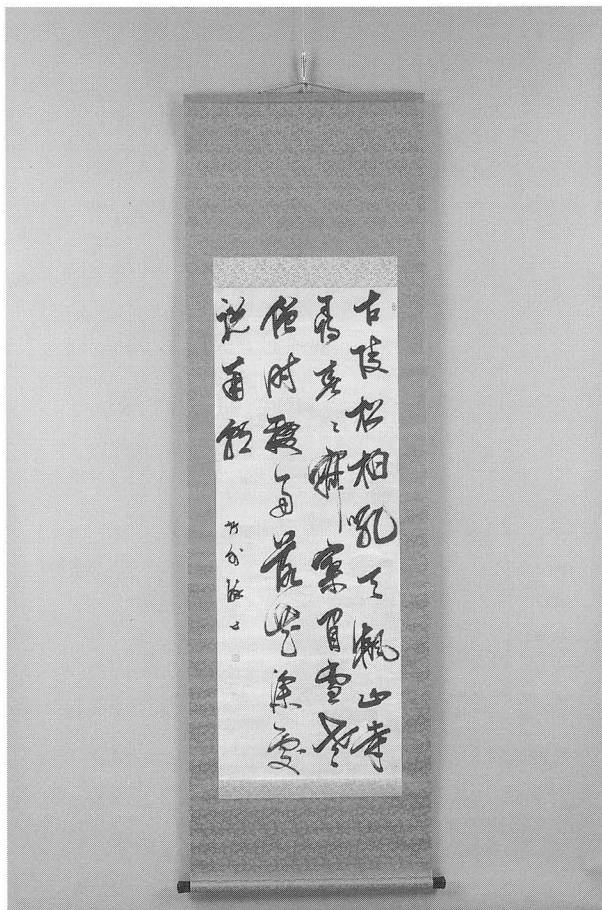
b. 同 永井直清書幅「五字書」



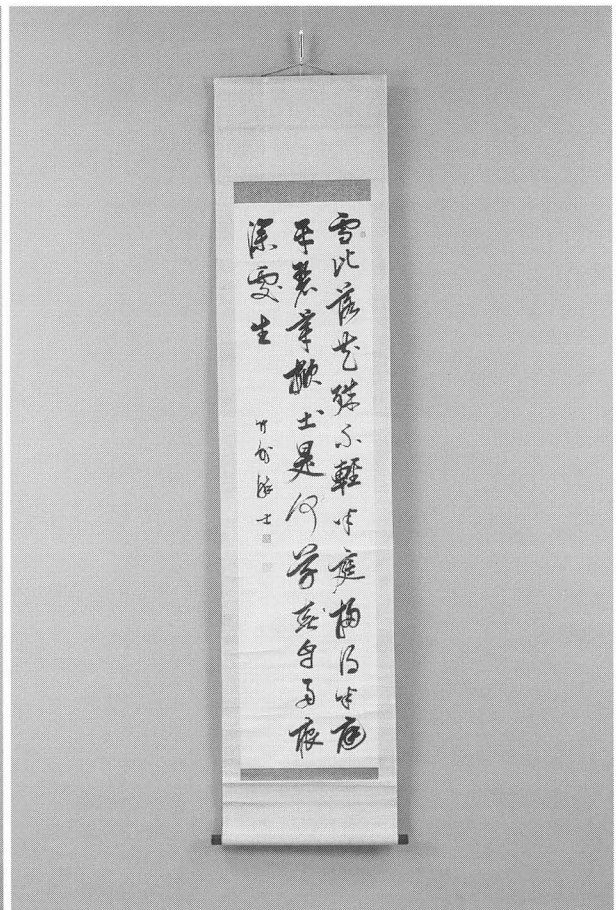
c. 同 永井直寛書幅「十二歳書」



a. 平成15年度 新収蔵文化財(購入) 藤井竹外屏風「秋暁」「冬暁澗江舟中」



b. 同 藤井竹外書幅「芳野」



c. 同 藤井竹外書幅「掃雪」



a. 平成16年度 新収蔵文化財(寄贈) 「奥村コレクション」



b. 同 「奥村コレクション」



上土室遺跡B区空中写真



a. 上土室遺跡 B区201



b. 同 B区99・98



c. 同 B区1096



d. 同 B区194



a. 史跡今城塚古墳 南造出(南西側から)



b. 同 後円部葺石・排水溝(南東側から)



a. 史跡鬮鷄山古墳第2次調査 墳頂部検出状況(北側から)



b. 同 第3次調査 後円部西側第2段斜面 第1段目テラス(東側から)

編集後記

平成15年度・16年度の2か年の文化財関連事業をまとめました。

しろあと歴史館が平成15年3月30日にオープンしたことにより、文化財チーム・埋蔵文化財調査センターによる3係体制となり、それぞれ分担して事業をおこなってきました。歴史館の活動が本格化したことで、特に普及啓発活動において事業量が増大しており、これを契機に『年報』の体裁を一新しました。当面はこのスタイルを維持しつつ、内容の充実を図っていきたいと思います。

本書掲載写真のうち、口絵2～4及び図版第7～9は清水良真（文化財専門員）が、図版第3～5は櫻井良治氏（櫻井スタジオ）が撮影しました。

本書の作成にあたり、山口 修（文化財チーム）・池田理美・松下智子の協力を得ました。編集は西本幸嗣・高橋公一がおこないました。

高槻市文化財年報 平成15・16年度

平成18年3月29日

発行 高槻市教育委員会文化財課
〒560-0067 高槻市桃園町2-1

印刷 株式会社 邦文社
〒533-0011 大阪市東淀川区大桐一丁目4番9号